

PRIMERGY BX300 マネジメントブレード

取扱説明書

ごあいさつ



このたびは、BX300 マネジメントブレードをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は、本製品の取扱方法を説明しています。

本書をご覧になり、本製品を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2002 年 9 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

本書の構成

章	内容
第 1 章 本製品について	本マネジメントブレードの特長、役割など、基本的な知識を解説しています。 まず、最初にお読みください。
第 2 章 本製品の取り付け / 取り外し	本マネジメントブレードの取り付け / 取り外し方法や初期設定方法を解説しています。本製品を設置するときにお読みください。
第 3 章 対応ソフトウェアについて	マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて解説しています。必要に応じてお読みください。
第 4 章 Web UI について	ブレードサーバの管理インタフェースである Web UI（ウェブユーザインタフェース）の使用方法について解説しています。必要に応じてお読みください。
第 5 章 CLI について	ブレードサーバの管理インタフェースである、CLI（コマンドラインインタフェース）の使用方法について解説しています。必要に応じてお読みください。項目の詳細については第 4 章も合わせてお読みください。
付録 A	本マネジメントブレードの設定情報を記載するコンフィグレーションシートを記載しています。コンフィグレーションシートは必ず記入してください。

1**2****3****4****5****A**

安全にお使いいただくために



本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。

また、本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

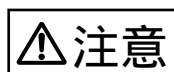
安全上のご注意



本装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。
本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



⊘ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

万一、異常が発生したとき

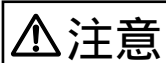


万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いについて



本製品を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因になります。



本製品をサーバ本体に着脱する際には、所定の手続きを守り正しく行ってください。



- 本製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災・感電の原因となることがあります。



近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

警告



取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手が届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

指示



- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。
- 本製品をご使用にならない場合は、静電気防止のため付属の梱包袋へ入れて保管してください。

電池の取り扱いについて



警告



使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手が届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



禁止



- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

指示



電池を取り付ける場合、極性のプラス(+)とマイナス(-)の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

梱包物の確認



マネジメントブレード（PG-MB101）の梱包物の確認は、本製品に添付の『マネジメントブレード梱包物一覧』を参照してください。

* 取扱説明書（本書）は PRIMERGY BX300 シャーシに添付されています。

本書の表記について



本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体または本サーバ

PRIMERGY BX300 ブレードサーバシステムのことです。

マネジメントブレードまたは本マネジメントブレード、本製品

PRIMERGY BX300 マネジメントブレードのことです。

シャーシ

PRIMERGY BX300 シャーシのことです。

サーバブレード

PRIMERGY BX300 サーバブレードのことです。

スイッチブレード

PRIMERGY BX300 スwitchブレードのことです。

Windows 2000 Server

Microsoft® Windows® 2000 Server の略です。

Windows 2000 Advanced Server

Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server の略です。

特に断りのない限り、Windows 2000 Server と記述している部分は、Windows 2000 Advanced Server を含みます。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。

画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

目 次

第 1 章 本製品について	1
1.1 特 長	2
1.2 名称と働き	3
第 2 章 本製品の取り付け / 取り外し	5
2.1 作業を始める前に	6
2.2 取り付け / 取り外し	7
2.3 初期設定	8
2.3.1 管理ソフトについて	8
2.3.2 通信インターフェースの設定	8
2.3.3 管理ユーザの設定	10
2.3.4 各種の設定値について	11
第 3 章 対応ソフトウェアについて	13
3.1 対応ソフトウェアについて	14
第 4 章 Web UI について	17
4.1 Web UI	18
4.1.1 スタート画面	19
4.1.2 各ページの基本操作	19
4.1.3 Overview ページ	20
4.1.4 System Property グループ	23
4.1.5 Switch Blade グループ	37
4.1.6 Management Blade グループ	38
4.1.7 Server Blade グループ	39
第 5 章 CLI について	47

5.1 CLI の使用方法.....	48
5.1.1 シリアルインタフェースを使用する	48
5.1.2 LAN インタフェース経由の Telnet を使用する	49
5.2 各画面の基本操作	50
5.3 マネジメントブレードの起動およびログイン	50
5.4 マネジメントブレードの各操作方法	51
5.4.1 コンソールメニュー	51
5.4.2 Management Agent.....	52
5.4.3 Console Redirection	103
5.4.4 Logout.....	106
5.4.5 Reboot.....	106
 付録 A	 109
A.1 仕様	110
A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する 留意事項	111
A.2.1 リモート電源切断について	111
A.2.2 ACPI シャットダウン機能について	111
A.3 コンフィグレーションシート	112

1 本製品について

この章は、本製品の特長、各部の名称を解説しています。

Contents

1.1 特 長	2
1.2 名称と働き	3

1.1 特 長

本製品は、シャーシ内の電源状態 / 温度状態 / システムファン状態の各種監視および制御を実施します。また、LAN ポートを持ち、遠隔地からも状態監視 / 制御が可能です。

マネジメントブレードの特徴

- 専用の CPU、LAN インタフェース、シリアルポートインタフェースを装備しているため、各ブレードの状態（ハング状態など）に依存せず動作が可能です。
- シャーシにマネジメントブレードを 2 台搭載することにより、管理機能を冗長化できます。マネジメントブレードの冗長運転時には、万一マネジメントブレードに故障が起きても活性交換が可能です。
- Web ブラウザとコマンドラインの 2 つの管理ツールをサポートし、シャーシを簡単に管理することができます。
- SNMP をサポートし、ネットワーク上でシャーシの 状態監視 / 制御が可能です。

シャーシ管理

- シャーシ内の各ブレード（サーバブレード、スイッチブレード、マネジメントブレード）、電源ユニット、システムファンユニットの状態監視が可能です。
- シャーシ内に搭載されるサーバブレードのディスプレイ / キーボード / マウス切り替え機能をサポートします。

各ブレード管理

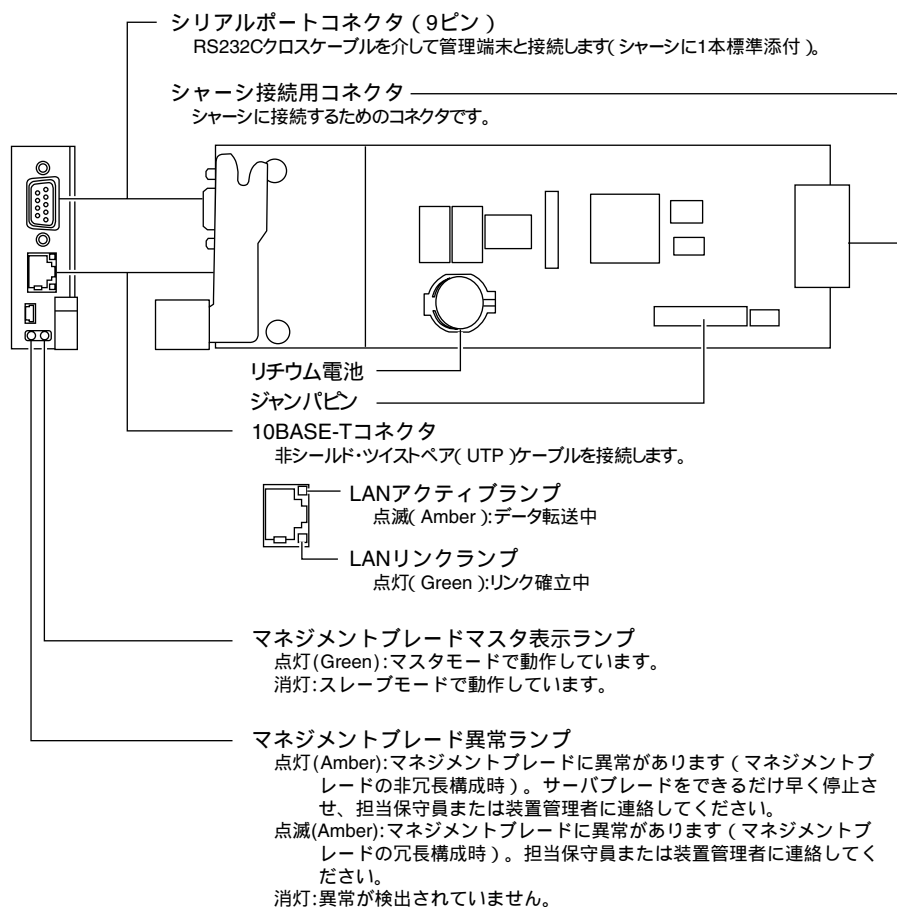
- サーバブレードに対して、電源制御を行うことが可能です。
- サーバブレード、スイッチブレードに対して、コンソールリダイレクションをサポート（テキスト画面のみ）します。
- サーバブレードの BIOS 情報をマネジメントブレードに退避し、サーバブレードの交換時に復元することができます。また、退避したデータをシャーシ内の他のサーバブレードへ復元することが可能です。

本製品は次の通信インタフェースをサポートしています。

- LAN インタフェース（10BASE-T）
- シリアルインタフェース

LAN ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。カテゴリ 3 以上のケーブルをご使用ください。RS-232C クロスケーブルはシャーシに 1 本添付されています。

ここでは、本製品の各部の名称と働きを解説します。



2 本製品の取り付け / 取り外し

2

本製品の取り付け / 取り外し

この章は、マネジメントブレードのシャーシへの取り付け / 取り外し手順、および初期設定について解説しています。

Contents

2.1 作業を始める前に	6
2.2 取り付け / 取り外し	7
2.3 初期設定	8

2.1 作業を始める前に

マネジメントブレードをシャーシに取り付け／取り外しをする場合には作業を始める前に、あらかじめ以下の準備を行ってください。

用意するもの

作業を始める前に以下のものをご用意ください。

- マネジメントブレード
- シャーシに添付の取扱説明書一式
 - シャーシ取扱説明書
 - サーバブレード取扱説明書
 - スイッチブレード取扱説明書
 - マネジメントブレード取扱説明書（本書）
- 管理端末



ポイント

管理端末には一般的なWebブラウザや端末エミュレータが動作する環境が必要です。

2.2 取り付け / 取り外し

取り付け / 取り外しは『シャーシ取扱説明書』を参照してください。



マネジメントブレードは筐体を常時監視するため、シャーシの電源ケーブルが接続された時点から 1 分程度で起動してブレードシステムの管理を開始します。

2

本製品の取り付け / 取り外し

2.3 初期設定

マネジメントブレードの運用を開始する前に、いくつか設定を行う必要があります。

2.3.1 管理ソフトについて

マネジメントブレードは Web UI（ウェブユーザインタフェース）と CLI（コマンドラインインタフェース）と呼ばれる管理ツールをサポートしています。管理端末から、これらの管理ツールを用いてブレードサーバのシャーシおよび各ブレードの管理を容易に行うことができます。

- Web UI は LAN 経由で Web ブラウザを通じての運用 / 管理を行うことができます。
- CLI はシリアルポートか LAN 経由の Telnet プロトコルを用いたコンソールメニュー上でコマンドラインベースでの運用 / 管理を行うことができます。

2.3.2 通信インタフェースの設定

お使いになる管理ツールと通信手段に応じて以下の手順で通信インタフェースの必要な設定を行います。

- Web UI または Telnet 経由の CLI を使用する場合
「 LAN インタフェースの設定」(8 ページ)
- シリアルインタフェース経由の CLI を使用する場合
「 シリアルインタフェースの設定」(9 ページ)

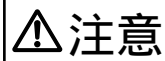


ポイント

初期設定ではデフォルトユーザ設定のユーザ名「root」、パスワード「root」で各管理ツールにアクセスしてください。

LAN インタフェースの設定

LAN インタフェースの設定手順は以下のとおりです。



マネジメントブレードの LAN インタフェースは、10Mbps 全二重固定のため、接続するハブやルータのポート設定は必ず 10Mbps 全二重固定にしてください。オートネゴシエーションや 10Mbps 半二重設定の場合は、コリジョンが発生し、通信効率が著しく低下します。

- 1 管理端末とマネジメントブレードをご使用のネットワークに合わせて LAN ケーブルで接続します（『シャーシ取扱説明書』を参照してください）。

⚠ 注意

- マネジメントブレードの LAN ポートは 10Base-T 全二重固定です。同一ネットワーク内で速度の異なるポートと接続すると、LAN の転送性能が低下する場合があります。たとえば IGMP 機能のないハブを使用してブロードキャストやマルチキャスト通信を行う場合は、1 番速度の遅いポートに全体の速度が合わせられます。ネットワークの接続を行う場合にはこの問題を考慮して構築を行ってください。
- マネジメントブレードを冗長構成で使用する場合は、LAN ケーブルを両方のマネジメントブレードに接続してください。マネジメントブレードに障害が起きた場合に設定を変更することなく自動的に通信経路を変更することができません。

- 2 管理端末から Web ブラウザを起動します (サポートする Web ブラウザは「4.1 Web UI」(18 ページ) を参照してください)。
- 3 Web ブラウザからマネジメントブレードにアクセスします。初期設定ではデフォルト値 (IP アドレス 192.168.1.1 / サブネットマスク 255.255.255.0) を使用してアクセスしてください (アクセス方法は「4.1 Web UI」(18 ページ) を参照してください)。
- 4 表示された [Overview] ページから [LAN Interface] をクリックして、LAN インタフェースの設定を行います (設定方法は「 [LAN Interface]」(31 ページ) を参照してください)。

シリアルインタフェースの設定

- 1 管理端末とマネジメントブレードをシャーシに添付された RS232C クロスケーブルで接続します (『シャーシ取扱説明書』を参照してください)。

⚠ 注意

管理端末はマスタモードで動作しているマネジメントブレードに接続してください。スレーブモードで動作しているマネジメントブレードのシリアルポートからは CLI には接続できません。

- 2 管理端末で端末エミュレータソフトを起動し、マネジメントブレードに接続できる設定を行います (設定方法は「5.1.1 シリアルインタフェースを使用する」(48 ページ) を参照してください)。

2.3.3 管理ユーザの設定

マネジメントブレードにはデフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」(パスワード「root」)が設定されています。

セキュリティ確保のためにパスワードは必ず変更してください。

Web UI からのパスワードの変更

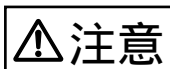
- 1 管理端末から Web UI にアクセスします。
- 2 [User Accounts] をクリックします。
「User Accounts」ページが開きます。
- 3 [root] をクリックします。
ユーザ名：root の「Account」ページが開きます。
- 4 以下の項目を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。
 - Password：新しいパスワードを入力します。
 - Confirm Password：新しいパスワードを再度入力します。

CLI からのパスワードの変更

- 1 管理端末から CLI にログインします。
- 2 (1) Management Agent (6) Username And Password の順に移動してください。
(1) の root を選択します。
- 3 以下の画面で (2) の Change Password を選択して、パスワードを変更してください。

```
+-----+
|           Edit Username And Password           page_1_6_2           |
+-----+

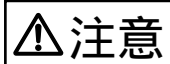
(1) Change Username : root
(2) Change Password : ***
(3) User Permission : administrator
Enter selection or type (0) to quit:
```



パスワードは最長 16 文字まで設定できます。また、大文字と小文字は区別されます。

2.3.4 各種の設定値について

マネジメントブレードを運用するため、管理ツール上で設置環境に合うように設定を行ってください。



マネジメントブレードで行った各種の設定値は画面のハードコピーやメモなどで退避を行ってください。設定の復元などや保守時に必要になります。

マネジメントブレードの設定値はシャーシ上の ROM に保存されており、マネジメントブレードの交換では消去されません。ただし、保守においてシャーシ上の ROM を交換した場合は、設定は工場出荷時の設定になりますので、退避した情報を元に再度設定を行ってください。

3 対応ソフトウェアについて

この章は、マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて説明しています。

3

対応ソフトウェアについて

Contents

3.1 対応ソフトウェアについて	14
------------------------	----

3.1 対応ソフトウェアについて

マネジメントブレードに対応するソフトウェアは、以下の通りです。

- ServerView V3.30 以降
ブレードサーバシステムの状態監視、遠隔操作が行えます。
- RemotecontrolService V3.06 以降
CLI の操作を Telnet 経由で行えます。

ServerView と RemotecontrolService は、シャーシとサーバブレード（シャーシ搭載出荷用を除く）に添付の ServerView CD に添付されています。バージョンの新しい方を使用してください。

ServerView と RemotecontrolService のインストール方法については、『サーバブレード取扱説明書』および ServerView CD 内の『ServerView ユーザーズガイド』の PDF を参照してください。



ポイント

Server View を使用するために、マネジメントブレードに対して以下の設定を行ってください。

- 管理端末とマネジメントブレードおよびサーバブレードを LAN ネットワークで接続してください。
 - LAN インタフェースの設定で、IP やサブネットマスクなどの設定を行ってください。
 - SNMP の設定を行ってください。SNMP を「Enable」にして、SNMP のコミュニティ名は ServerView と共通に設定します。
 - [SNMP Trap Destination] に ServerView をインストールした管理端末の IP アドレスを設定します。
 - CLI で Management Agent System Name を設定してください。（推奨）
「 Agent Information」（ 53 ページ）を参照してください。
- SystemcastWizard Professional V2.2 以降（オプション）
ブレードサーバシステムへの OS 一括インストールなどを実現するソフトウェアです。
サーバブレードをネットワークブートさせることにより、搭載ハードディスクの IDE アレイシステムの構築および区画作成、OS インストールなどの作業をリモートの端末から実行できます。

以下の機能のためにマネジメントブレードを利用しています。

- 各サーバブレードにリモートから電源投入を指示し、PXE (Preboot eXecution Environment) 起動させる。
- マネジメントブレードに格納された各サーバブレードの Deployment Configuration の構成情報を読み出し、SystemcastWizard Professional のコンピュータ管理情報として利用する。

SystemcastWizard Professional のインストール方法、利用方法などについては、SystemcastWizard Professional のオンラインマニュアルを参照してください。

4 Web UI について

この章は、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理 / 運用するための Web UI (ウェブユーザインタフェース) について説明しています。

4

Web UI について

Contents

4.1 Web UI	18
------------------	----

4.1 Web UI

マネジメントブレードは Web インタフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer (Version IE 5.0、IE 5.5 および IE 6.0 以降)
- Netscape (Version 4.75、4.78 および 6.x 以降)

マネジメントブレードに Web UI からアクセスするには、Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のアドレスを入力します。<IP アドレス> にはマネジメントブレードの IP アドレスを入れてください。

- `http://<IP アドレス>:<ポート番号 (デフォルト : 80)>`

ユーザ名とパスワードを聞かれるので、入力してログインしてください。



ポイント

ServerView コンソールから Web インタフェースにアクセスすることもできます。アクセス方法については、『ServerView ユーザーズガイド』に記載されている、「ServerView の使用方法」の「Blade Server View」の「設定ボタン」を参照してください。

4.1.1 スタート画面

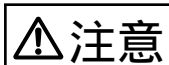
開始アドレスにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力して認証されると、スタート画面として「Overview」ページが表示されます。

Web UI は、すべてのページのヘッダ領域とフッタ領域が同じ方法で構成されています。

ヘッダ領域には、ブレードサーバ名と現在のページのタイトルが表示されます。ブレードサーバ名をクリックすると「Overview」のページが表示されます。

フッタ領域には、以下の情報が表示されます。

- Controller time
マネジメントブレードの日付と時刻を確認できます。



注意

表示される日付と時刻はWeb ページにアクセスした時のものです。

また、ヘッダ領域とフッタ領域の両方に以下のリンクが表示されます。

アイコン	説明
	このアイコンをクリックするとヘルプファイル（英語）が表示されます。
	このアイコンをクリックすると Overview のページが表示されます。
	このアイコンをクリックすると表示されているページの最上部に移動します。
	このアイコンをクリックすると表示されているページの最下部に移動します。

4.1.2 各ページの基本操作

各ページでの設定はボックスに文字や数値を入力したあと、[Apply] などのボタンをクリックすることで有効になります（一部マネジメントブレードの再起動が必要な項目があります）。

各項目に移動するときはリンクをクリックしてください。

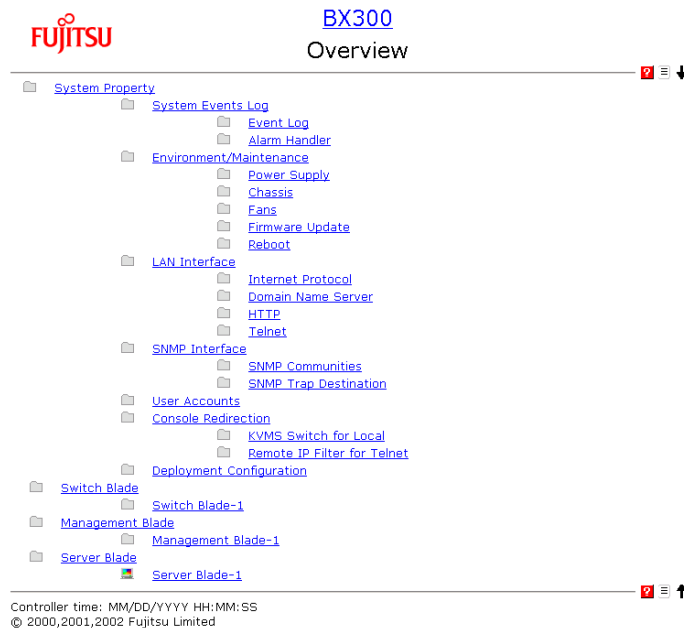


注意

最初にスタートページを表示させる場合の他はアドレスバーに直接 URL を入力しての移動は行わないでください。

4.1.3 Overview ページ

Overview ページはブレードサーバシステムのシステム構成、プロパティ、システムに搭載されているブレードなどが表示されます。このページは [System Property] [Switch Blade] [Management Blade] [Server Blade] の 4 つのグループに分けられています。



[System Property] グループ

このグループは、システム構成のために使用します (「4.1.4 System Property グループ」(23 ページ) 参照)。

[System Event Log]

ログを表示したり、アラームハンドラなどを設定します(「 [System Event Log]」(23 ページ) 参照)。

[Event Log]

マネジメントブレードやサーバブレードのイベントログを表示します。

[Alarm Handle]

アラームハンドラを設定します。

[Environment/Maintenance]

シャーシ、ファン、電源ユニットなどの環境装置について、ステータスの監視および動作の制御を行います。
また、マネジメントブレードに関して再起動の設定を行います(「 [Environment/Maintenance]」(26 ページ) 参照)。

[Power Supply]

電源ユニットのステータスや稼働時間などの情報を表示し、また、シャーシのメイン電源の ON/OFF などの設定を行います。

[Chassis]

シャーシのドアステータスの表示や温度情報の表示 / 設定、および保守ランプの点灯指示を行います。

[Fans]

システムファンユニットのステータスや稼働時間などの表示 / 設定、ファンテストの設定を行います。

[Firmware Update]

通常は使用しません。

[reboot]

マネジメントブレードの再起動を行います。

[LAN Interface]

ネットワーク構成に関する設定を行います(「 [LAN Interface]」(31 ページ) 参照)。

[Internet Protocol]

IP アドレスなどの設定を行います。

[Domain Name Server]

DNS の設定を行います。

[HTTP]

HTTP のポート番号などを設定します。

[Telnet]

Telnet のポート番号などを設定します。

[SNMP Interface]

SNMP に関する情報を設定します (「 [SNMP Interface]」(33 ページ) 参照)。

[SNMP Communities]

SNMP のコミュニティ名を設定します。

[SNMP Trap Destination]

SNMP トラップの送信先を設定します。

[User Accounts]

新しいユーザの追加とパスワードの変更をします (「 [User Account]」(34 ページ) 参照)。

[Console Redirection]

コンソールリダイレクションなどに関する設定を行います (「 [Console Redirection]」(35 ページ) 参照)。

[KVM Switch for Local]

KVM (キーボード / ディスプレイ / マウス) の切り替えの設定を行います。

[Remote IP Filter for Telnet]

Telnet 可能な IP のフィルタリングを行います。

[Deployment Configuration]

Deployment ソフトなどで使用可能な各サーバブレードのパラメータの表示 / 設定を行います。

Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードの情報の表示と保守ランプの制御を行います (「 4.1.5 Switch Blade グループ」(37 ページ) 参照)。

Management Blade グループ

搭載されているマネジメントブレードの情報の表示と時刻の設定を行います (「 4.1.6 Management Blade グループ」(38 ページ) 参照)。

Server Blade グループ

搭載されているサーバブレードの情報の表示と各種設定を行います (「 4.1.7 Server Blade グループ」(39 ページ) 参照)。

System Property グループはシステム構成のために使用します。

[System Event Log]

[System Event Log] ページでは、マネジメントブレードとサーバブレードのイベントログの表示と、アラームハンドラの設定ができます。マネジメントブレードのログにはシャーシに関するイベントログが含まれます。

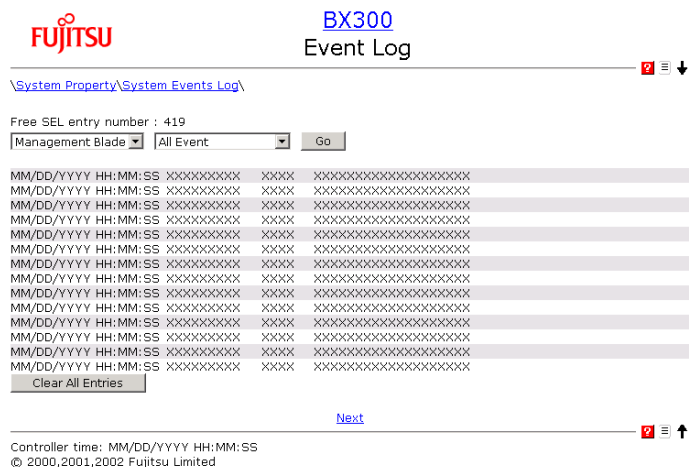
[Event Log]

[Event Log] をクリックすると以下のページが表示されます。プルダウンメニューからマネジメントブレードを選択すると、マネジメントブレードに記録されたイベントログのメッセージを確認できます。また、搭載されているサーバブレードを選択すると、そのサーバブレードに記録されたイベントログを確認することができます。

最新のイベントログが表示されます。[Next] をクリックすることによって過去のログを順次確認することができます。

Free SEL entry number で残りのイベントログの件数を確認できます。

イベントログのエントリはマネジメントブレードが最大 511 件、サーバブレードが最大 488 件まで保存できます。



イベントログの表示する内容はプルダウンメニューの中からエラーレベルを選択することによってフィルタリングすることができます。

- ALL Event
すべてのログを表示します。
- Informational Event
システムの適切なオペレーション。システムのイベントをユーザに通知するために記録されます。
- Minor Event
重要度の低いイベントについての警告。状況が変わらなければオペレーションステータスの喪失をもたらすような切迫した問題を示しています。
必要に応じて問題を解決する必要があります。

- Major Event
重要度の高いイベントについての警告。状況が変わらなければオペレーションステータスの喪失をもたらすような切迫した問題を示しています。
できるだけ早く問題を解決する必要があります。
- Critical Event
重大な問題についての警告。これらのイベントは問題解決されないとシステムにおける誤った操作の原因になります。

[Clear All Entries] のボタンをクリックすることによってログを消去することができます。



ポイント

イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に [Event Log] でログを確認し、必要に応じてログの保存 / 消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。

[Alarm Handler]

[Alarm Handler] ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認できます。アラームハンドラはシステム内であるイベントが起きたとき、イベント内容を通知する電子メールを送ることができます。
以下に [Alarm Handler] ページについて説明します。

Mail Settings

ここではメール送信についての設定を行います。

表示 / 設定項目	説明
To	受信側の電子メールアドレスを入力します。
From	送信側の電子メールアドレスを入力します。
Host	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストの IP アドレスかホスト名を入力します。
Subject	電子メールの件名を入力します。件名は PRIMMAIL に固定されています。
Administrator Name	管理者の名前を入力します。これはメールの内容として送信されます。
Phone number	管理者の連絡用の電話番号を入力します。これはメールの内容として送信されます。

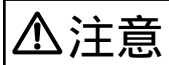
Error Forwarding Level

このセクションでは、送信するイベントのフィルタを設定します。アラームハンドラではイベントのエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。これにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにすることができます。

Server Blade Power On/Off Event Log Enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウン についてのイベントログを記録するかどうか設定します。

- enable
サーバブレードの電源ON/OFFやシャットダウンに関するイベントログを記録します。
- disable
サーバブレードの電源ON/OFFやシャットダウンに関するイベントログを記録しません。



この設定を「enable」にすると、イベントログが記録される件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにしてください。

[Environment/Maintenance]

[Environment/Maintenance] ページでは、温度 (Temperature)、電源 (Power Supply)、ファン (Fans)、フロント / リアファンユニットの状態 (Door Status) に関する情報を確認できます。また、温度異常、ファン故障時のアクションを設定することもできます。

マネジメントブレードの再起動の指示を行うことができます。

[Power Supply]

[Power Supply] ページでは、電源ユニットの温度、内蔵ファン、稼動時間などの情報の表示と ON / OFF などの制御を行うことができます。

以下に [Power Supply] ページについて説明します。

表示 / 設定項目	説明
Power Switch	電源ユニットの電源状態を制御します。使用する場合は「A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項」(111 ページ) を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">- ON : シャーシのメイン電源を入れます。- OFF : シャーシのメイン電源を切ります。- ACPI Shutdown : サーバブレードの OS に ACPI のシャットダウン信号を送ってから電源を切ります。 <p>以下のチェックボックスをオンにすることにより、ACPI shutdown が失敗した場合に強制的に電源を切る動作を設定することができます。</p> <p>When ACPI shutdown fail, force power off after X minutes. (X は 1 ~ 7 分が選択できます)</p>
Group Status	電源ユニット全体の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none">- ok : 電源ユニットは正常に動作中です。- degraded : 冗長化された電源ユニットの冗長性が失われています。- critical : 電源ユニットに重大な問題が起っています。
Redundancy Units	冗長電源ユニットの数を表示します。
Power Supply Unit X	電源ユニットスロット 1、2 に搭載されている電源 / ダミー電源ユニットの各ステータスを表示します。



ポイント

シャーシのメイン電源を入れると、スイッチブレードとシステムファンが動作を開始します。サーバブレードには電源の通電は行われますが、電源投入指示を別途行わない限り起動しません。

- 電源ユニットの定期交換について



電源 / ダミー電源ユニットは定期交換部品です
(『シャーシ取扱説明書』を参照してください)。
定期交換後は設定の変更を行ってください。

表示 / 設定項目	説明
Live Time	電源 / ダミー電源ユニットの動作時間を表示します。 単位は時間 (hrs) です。電源 / ダミー電源ユニット を交換したら、[Reset] ボタンをクリックしてこの値 を 0 に設定してください。
Live Time Limited Count	電源 / ダミー電源ユニットの寿命時間を表示します。

[Chassis]

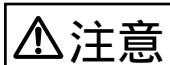
[Chassis] ページではシャーシとフロントファンユニット、リアファンユニットの情報を表示します。また、シャーシ内の温度表示と温度異常時のアクションを設定することができます。
以下に [Chassis] ページについて説明します。

表示 / 設定項目	説明
System Information	システム情報
Overall Status	システム全体のステータスを表示します。
System LED	システム識別灯表示機能として、シャーシの保守ランプの状態を制御できます。 <ul style="list-style-type: none"> - on : シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させます。 - off : シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させません。 - blinking : シャーシ前面と背面の保守ランプを点滅させます。
Door Status	ドアステータス
Sensor ID	対象となるファンユニットを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> - Front Panel : フロントファンユニットです。 - Rear Panel : リアファンユニットです。
Status	ファンユニットの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> - open : ファンユニットが取り外されています。 - close : ファンユニットが挿入されています。
Ambient Temperature	環境温度
No	各温度センサの番号を表示します。
Status	各温度センサの状態を表示します。

表示 / 設定項目	説明
Designation	各温度センサの場所を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> - Housing-Left, Center, Right : 筐体の左側、中央、右側 (筐体前面視) - Ambient : フロントファンユニット内部 - Switch-1 ~ 4 : スイッチブレード内部
Temperature	各温度センサで測定した温度を表示します。
Warning Level	警告する温度を表示します。
Critical Level	危険温度を表示します。
Reaction	温度が危険 (Critical Level) な値に達した場合に対するアクションを表示します。

各センサに対して以下のアクションを設定することができます。

- continue
温度異常時にもサーバを継続稼働させます。
- shutdown-power off
温度が危険 (Critical-Level) な値に達すると、シャーシのメイン電源の ACPI shutdown を行います。



シャーシの保守ランプは、System Overall Status が error または critical 状態の時は on を指示しても blinking します。

[Fans]

[Fans] のページでは、ファンの状態の表示とファン故障時のアクションを設定することができます。

以下に [Fans] ページについて説明します。

表示 / 設定項目	説明
ID	各ファンの番号を表示します。
Status	各ファンのステータスを表示します。
Designation	各ファンの場所を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> - Front-Fan-1 ~ 5 : フロントファンユニット内蔵ファン - Rear-Fan-1 ~ 2 : リアファンユニット内蔵ファン - PowerUnit1, 2-Fan-1 ~ 3 : 電源ユニット内蔵ファン (1: 電源冷却用ファン、2, 3: リア部システムファンユニット)
Normal Revolutions	各ファンの回転数を表示します。
Reaction	各ファンが異常になった場合のアクションを表示します。

各ファンに対して以下アクションを設定することができます。

- continue
ファン故障時にもサーバを継続稼働させます。
- shutdown-power off
ファンが異常になった場合にシャーシのメイン電源の ACPI shutdownを行います。

Fans Test

ファン故障の予兆監視のために、1 日で設定された時刻(Daily test time)になるとファンの動作テストが行われます。

Daily test time

- hour : minute
時刻を「時 : 分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。
- disabled
ファンの動作テストは行いません。

Fan test at every start-up

チェックするとメイン電源を入れるたびにファンの動作テストを行います。

Fans Live Time Counter

システムファンユニットの動作時間と寿命時間の表示 / 設定を行います。

表示 / 設定項目	説明
Front/Rear fans	フロント / リアファンユニットの動作時間を表示します。単位は時間 (hrs) です。フロント / リアファンユニットを交換したら [Reset] ボタンをクリックしてこの値を 0 に設定してください。
Front/Rear fans limited count	フロント / リアファンユニットの寿命時間を表示します。



注意

システムファンユニットは定期交換部品です (『シャーシ取扱説明書』を参照してください)。
定期交換後は設定の変更を行ってください。

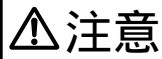
[Firmware Update]

通常は使用しません。

[reboot]

[reboot] のページではマネジメントブレードを再起動することができません。

[Reset Management Blade] のボタンをクリックすると、マネジメントブレードが再起動します。



注意

- マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続 (Web UI、Telnet など) はいったん解除されます。操作を続ける場合は、マネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。

[LAN Interface]

マネジメントブレードは Web サーバ、Telnet、SMTP、DNS などのネットワークサービスの機能を持っています。

このページではネットワーク構成の設定を行うことができます。

[Apply LAN Configuration] ボタンをクリックすることにより設定が反映されます。一部マネジメントブレードの再起動が必要になるものがあります。

FUJITSU **BX300**
LAN Interface

[\System Property\](#)

Internet Protocol * The setting will be effective after reboot
 Use DHCP ☒ disable ☐ enable
 IP Address
 Subnet Mask
 Gateway

Domain Name Server
 DNS Server 1
 DNS Server 2

HTTP
 Port * The setting will be effective after 10 seconds

Telnet
 Port * The setting will be effective after reboot
 DropTime seconds * The range is 30~65535 and 0 means disable timeout

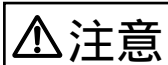
Apply LAN Configuration

Controller time: MM/DD/YYYY HH:MM:SS
 © 2000,2001,2002 Fujitsu Limited

[Internet Protocol]

[Internet Protocol] のページでは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP の設定を行うことができます。

表示 / 設定項目	説明
Use DHCP	DHCP を使用して IP などを取得するかどうかを設定します。 - enable : DHCP を使用します。 - disable : DHCP を使用しません。
IP Address	マネジメントブレードの IP アドレスを設定します。 設定必須 デフォルト値 : 192.168.1.1
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 設定必須 デフォルト値 : 255.255.255.0
Gateway	ゲートウェイの IP アドレスを設定します。



注意

ここでの設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

[Domain Name Server]

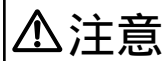
[Domain Name Server] のページでは、Domain Name Server (DNS) の設定を行うことができます。

表示 / 設定項目	説明
DNS Server 1	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
DNS Server 2	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

[HTTP]

[HTTP] のページでは、ポート番号の設定を行うことができます。

表示 / 設定項目	説明
Port	HTTP インタフェースのポート番号を設定します。 デフォルト値 : 80



Port の設定は変更してから約 10 秒後に有効になります。

[Telnet]

[Telnet] のページでは、ポート番号および Drop Time の設定を行うことができます。

表示 / 設定項目	説明
Port	Telnet のポート番号を設定します。 デフォルト値 : 3172
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切れるまでの時間 (秒) を設定します。 設定できる範囲は 30 秒から 65535 秒までです。0 を設定すると自動切断機能が無効になります。



Telnet の Port 番号の変更はマネジメントブレード再起動後に有効になります。

[SNMP Interface]

[SNMP Interface] のページでは、SNMP のコミュニティとトラップの送信先を設定できます。

SNMP Communities

Community	Delete
public	<input type="checkbox"/>

Apply

Community

New Community

SNMP Trap Destination

Destination

No Trap Destination

Delete

Destination

New Trap Destination

Controller time: MM/DD/YYYY HH:DD:SS
© 2000,2001,2002 Fujitsu Limited

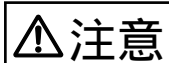
[SNMP Communities]

[SNMP Communities] のページでは、SNMP のコミュニティ名の追加 / 削除を行うことができます。

設定されたコミュニティ名がある場合、表示されているコミュニティ名の横のチェックボックスにチェックを入れたあとに[Apply]ボタンをクリックすることにより、そのコミュニティ名を削除することができます。

Community

新しい SNMP のコミュニティ名を入力して [New Community] のボタンをクリックすると、新しい SNMP のコミュニティ名が追加されます。最大 5 個までのコミュニティを登録することができます。



注意

ServerView や SystemcastWizard などの SNMP で通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必須になります。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

[SNMP Trap Destination]

[SNMP Trap Destination] のページでは、SNMP トラップの送信先の追加と削除を行います。

Destination [Delete]

SNMP トラップの送信先の削除を行います。
プルダウンから選択して [Delete] ボタンをクリックすることにより SNMP トラップの送信先を削除することができます。

Destination [New Trap Destination]

SNMP トラップの送信先の追加を行います。

SNMP トラップの送信先アドレスを入力して[New Trap Destination]のボタンをクリックすると新たな SNMP トラップの送信先を設定することができます。IP アドレス（例：192.168.1.2）を入力します。最大 5 個までの送信先を登録することができます。

[User Account]

[User Account]のページでは、新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除ができます。管理者権限がないとユーザに関する操作は行えません。

既存のユーザ名または [Add New User Account] ボタンをクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる [Account] ページが表示されます。



ポイント

デフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」（パスワード「root」）が設定されています。ユーザ名「root」のパスワードは初期設定時に必ず変更してください。

[Account] ページでは以下の設定を行います。

表示 / 設定項目	説明
Name	新しいユーザ名を設定します。
Password	パスワードを設定します。
Confirm Password	確認のためパスワードを再度設定します。
Permissions	ユーザの権限を設定します。 <ul style="list-style-type: none">- Read Only : 設定の読み取り専用です。- Read Write : 設定の読み書きができます。- Administrator : 管理者 (Root) の権限を持ちます。

ユーザの削除に関しては「DeleteUserAccount」をチェックして [Apply] ボタンをクリックしてください。



注意

ユーザ「root」は削除できません。登録できるユーザ数は「root」を含めて 10 ユーザです。

[Console Redirection]

[Console Redirection] のページでは、コンソールリダイレクションのフィルタリングの設定と KVM の切り替えを行います。

[Keyboard/Mouse/Video(KVM) Switch for Local]

[Keyboard/Mouse/Video Switch for Local] のページでは、シャーシのキーボード / ディスプレイ / マウスのコネクタをどのスロットのサーバブレードが使用するかを切り替えます。

Select KVM

搭載されているサーバブレードの一覧が表示されるので、キーボード / ディスプレイ / マウスをシャーシのコネクタから使用したいサーバブレードを選んで [Apply] をクリックしてください。

[Remote IP Filter For Telnet]

[Remote IP Filter For Telnet] のページでは、Telnet 接続を許可する IP のフィルタリングが行えます。最大 10 個の IP アドレスまで登録可能です。ボックスの中には接続を許可している IP アドレスが表示されます。

IP フィルタの削除

ボックスの中に登録されている IP アドレスを選択し、[Delete] ボタンをクリックすると登録を削除できます。



ポイント

IP フィルタリングを行わない設定として 255.255.255.255 がデフォルトで登録されています。フィルタリングを行う場合は必要に応じて削除してください。

New Allowed IP

IP フィルタの登録を行います。

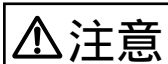
接続を許可する IP を入力して [Add] ボタンをクリックすると登録できます。IP アドレス (例 . 192.168.1.2) を入力します。最大 10 個まで登録することができます。

Deployment Configuration

搭載されている各ブレードに対して以下の Deployment パラメータが表示 / 設定できます。Deployment パラメータは各種の Deployment ソフトや ServerView など
で使用されます。

プルダウンメニューから搭載されているサーバブレードを選択することによって各サーバブレードに対する Deployment パラメータを設定できます。

表示 / 設定項目	説明
Chassis ID	シャーシの ID を表示します。
Slot ID	サーバブレードが搭載されているスロット番号を表示します。
MAC Address 1	サーバブレードの LAN ポート 1 の MAC アドレスを表示します。
MAC Address 2	サーバブレードの LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。
IP Address 1	サーバブレードの LAN ポート 1 の IP アドレスを設定します。
IP Address 2	サーバブレードの LAN ポート 2 の IP アドレスを設定します。
Subnet Mask 1	サーバブレードの LAN ポート 1 のサブネットマスクを設定します。
Subnet Mask 2	サーバブレードの LAN ポート 2 のサブネットマスクを設定します。
Default Gateway 1	サーバブレードの LAN ポート 1 のデフォルトゲートウェイを設定します。
Default Gateway 2	サーバブレードの LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを設定します。
Hostname	ホストネームを設定します。
MasterImageReference	マスタイメージのディレクトリを設定します。
Status of Blade	サーバブレードの現在のステータスを表示します。
Lan Status of slot	LAN ステータスを設定します。
AutomaticRecovery	オートマティックリカバリ機能を有効にするかどうかを設定します。
Status of Cloning	クローニングのステータスを表示します。
OEM parameters 1-10	OEM パラメータを指定します。



注意

IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Hostname、MasterImageReference 等は ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合を除いて変更しないでください。

4.1.5 Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードがすべて表示されます。
リンクをクリックするとそのスイッチブレードに対する以下の情報が表示されます。

表示 / 設定項目	説明
Located LED	スイッチブレードの保守ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードを判別するために使用します。 <ul style="list-style-type: none">- blinking : スイッチブレードの保守ランプを点滅させます。- off : スイッチブレードの保守ランプの制御を行いません。
Blade Information	ブレード情報
Manufacture	製造元を表示します。
Produce Date	製造年月日を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Product Name	製品名を表示します。
Model Name	モデル名を表示します。
Board Version	ボードの版数を表示します。
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Network Setting	ネットワーク設定
Mac Address	管理用のマックアドレスを表示します。
IP Address	管理用の IP アドレスを表示します。
URL Address	スイッチブレードの Web UI の URL が表示されます。クリックするとそのページにジャンプします (ネットワークの配線と設定が必要です)。

⚠ 注意

スイッチブレードの表示情報を更新するには、マネジメントブレードの再起動が必要です。マネジメントブレードを再起動せずに最新情報を確認するには、スイッチブレードの Web インタフェースか CLI にアクセスして各項目を確認してください。アクセス方法は『スイッチブレード取扱説明書』を参照してください。

4.1.6 Management Blade グループ





搭載されているマネジメントブレードがすべて表示されます。

リンクをクリックするとそのマネジメントブレードに対して以下の情報が表示されます。

表示 / 設定項目	説明
Blade Information	ブレード情報
Play Role	マネジメントブレードの動作モードを表示します。 <ul style="list-style-type: none">- master (マスタ): マスタとしてシャーシ全体の管理を行っています。- slave (スレーブ): スレーブモードとして動作し、マスタのマネジメントブレードの監視を行っています。万が一マスタのマネジメントブレードに故障が起きた場合はシャーシの管理を引継ぎます。
Manufacture	製造元を表示します。
Produce Date	製造年月日を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Product Name	製品名を表示します。
Model Name	モデル名を表示します。
MAC Address	管理用の MAC アドレスを表示します。
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Controller Time	
(MM/DD/YYYY)	マネジメントブレードの日付を「月 / 日 / 西暦」で設定します (表示はアクセス時のものです) 。
(HH:MM:SS)	マネジメントブレードの時刻を「時 : 分 : 秒」のように 24 時間形式で設定します (表示はアクセス時のものです) 。
Time Zone	タイムゾーンを設定します。
Change Management Role to Slave	マネジメントブレードの動作モードを変更します。通常は使用しません (冗長構成でない場合は表示されません) 。
Change Management Role to Master	

4.1.7 Server Blade グループ

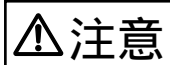
[Server Blade] グループには、シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードが表示されます。同時にサーバブレードの電源のステータスと KVM (キーボード / ディスプレイ / マウス) のセレクト位置がアイコンで表示されています。

アイコン	説明
	サーバブレードは電源 OFF の状態です。
	サーバブレードは電源 ON の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされていますが電源 OFF の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされており電源 ON の状態です。

[Server Blade] をクリックすると [Server Blade] のページが表示されます。

[Turn on all server blades] ボタンをクリックすると、搭載されているすべてのサーバブレードの電源が順次入ります。

[Turn off all server blades] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。そこで [YES] のボタンをクリックすると、搭載されているすべてのサーバブレードの [Power Status] に対して順次「OFF」が指示されます (サーバブレードの [Power Status] に関しては「 Power Status 」(43 ページ) を参照してください)。



このページでサーバブレードの電源制御を行う場合は、指示を行ったあとに電源の ON/OFF がすべて完了したことを Web UI のアイコンなどで確認してから次の操作に移ってください。

各サーバブレードをクリックすると、そのサーバブレードに関する設定と情報を表示するページに移動します。以降の処理は表示されているページのサーバブレードに対して行われます。

[Recovery] グループ

[Recovery] のページは異常発生時のアクションや CMOS バックアップ / リストア設定、電源設定とスケジュール、ブートオプションの設定などができます。

[ASR]

Software Watchdog

ServerView により設定されている場合は項目が表示されます。

Boot Watchdog

サーバブレードの OS 起動失敗時のアクションを設定します。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。サーバブレードの POST が終了してからタイムアウト時間 (Watchdog Time) の間に ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには以下のオプションがあります。

表示 / 設定項目	説明
Boot Watchdog	OS 起動失敗について設定します。 <ul style="list-style-type: none">- enable : OS の起動を監視します。- disable : OS の起動を監視しません。
Watchdog Time	設定された時間に従い OS 起動失敗を監視します。 設定値は 2 分から 100 分の間で段階的に設定可能です。
Watchdog Action	OS の起動が失敗した時のアクションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">- reboot : サーバブレードを再起動します。- off : サーバブレードの電源を切ります。- power-cycle : サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れます。
Maximum Restart Retries	OS 起動に失敗した場合に何回リトライするか設定します。 <ul style="list-style-type: none">- 0 : リトライしません。- 1 ~ 7 回 : 設定した回数リトライします。



ポイント

「OS ブート監視」機能の有効 / 無効は ServerView から設定できます。

⚠ 注意

- OS に ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- OS に ServerView をインストールしている場合にも、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- 本機能の設定時には ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」をご覧ください。本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

[Auto Configuration]

System CMOS Configuration Backup/Restore

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避 / 復元処理を行います。

サーバブレードの電源を入れたあと、POST が終了するまで操作できません。その場合は[Not ready to backup/restore, now!!]が表示されます。

⚠ 注意

- 次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。
 - 本サーバブレードを初めて使用する場合
 - BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
 - 本サーバブレードのハードウェア構成を変更した場合、具体的には、メモリの増減・変更があった場合
- BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避 / 復元することができます。内蔵 RAID 装置の BIOS 情報については退避復元できません
- 退避 / 復元の結果はマネジメントブレードのイベントログに記録されます。

CMOS Backup

BIOS の CMOS 設定を退避します。

CMOS Restore

BIOS の CMOS 設定を復元します。
BIOS 情報を有効にするためにはサーバブレードの再起動が必要です。
必要に応じて再起動してください。

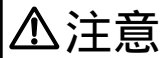
CMOS File

マネジメントブレードに退避されている CMOS 設定ファイルを表示します。「スロット番号：MAC アドレス：退避した日付：BIOS 版数」がファイル名としてつけられています。復元したい設定ファイルを選択してください。

Restore Policy

サーバブレードに BIOS の CMOS 設定を復元する場合の条件（ポリシー）を設定します。

- smart-restore
復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が異なる場合は、復元の処理を中止します。
- force-restore
復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードが異なる場合でも、復元を強制的に行います。



注意

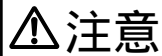
退避したサーバブレードの BIOS 設定情報はマネジメントブレード上の ROM に保存されます。そのためマネジメントブレードを交換するとその情報は失われます。ただし、マネジメントブレードが冗長構成の場合には ROM の情報はマスタ - スレーブ間で同期されますので、片側のマネジメントブレードを交換しても退避した BIOS 情報は失われません。

[Power Control]

Power Status

サーバブレードの電源の設定を行います。

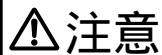
- on
サーバブレードの電源を入れます。
- off
サーバブレードの電源ボタンを押した場合と同等の動作をします。
Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となります。使用する場合は「A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項」(111 ページ) を参照してください。
- power-cycle
サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れます。
- reset
サーバブレードを再起動します。
- NMI
通常は選択しないでください。
- force-off
サーバブレードの電源を強制的に切ります。



サーバブレードの電源切断を指示したあと、電源 ON を指示する場合はサーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

Power On/Off

サーバブレードのスケジュール運転に関する設定をします。
スケジュール運転を毎日行う場合には Everyday の On Time を設定して [Everyday] ボタンをクリックしてください。



ここではサーバブレードの Off Time の設定は行えません。設定する場合は ServerView を用いて行ってください。詳細は『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

On Time

- hour : minute
各曜日に対してサーバブレードの電源を入れる時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。
- disabled
電源を入れる時刻を設定しません。

Off Time

設定を行わないで下さい。電源切断時刻は ServerView を使用して設定してください。

Power Setting

通常は使用しません。

[Boot Option]

サーバブレードのブートオーダーの変更を行います。

Boot Option Selected

OS ブート時のブート方法を設定します。

- normal
サーバブレードのブートオーダーを BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。
- pxe-lan-1
サーバブレードのブートオーダーの先頭を LAN ポート 1 を使用して PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。
- pxe-lan-2
サーバブレードのブートオーダーの先頭を LAN ポート 2 を使用して PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。

Boot CPU Operating

サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。

- Performance
サーバブレードに搭載されている CPU は Performance モードで動作しています。
- not-ready
CPU は動作していません。

[Blade Info] グループ

[Blade Info] のページは、シャーシに搭載されている各サーバブレードに対して、システムボード、CPU、メモリ、電圧の各情報を表示します。

表示 / 設定項目	説明
Blade Status	サーバブレードのステータスを表示します。
Server LED	サーバブレード判別機能として、サーバブレードの電源ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のサーバブレードを判別するために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - blinking : サーバブレードの電源ランプを点滅させます。 - off : サーバブレード電源ランプの制御を行いません。
Model	モデル名を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
BIOS Version	BIOS の版数を表示します。
Firmware Version	BMC (Baseboard Management Controller : ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ) のファーム版数を表示します。
OS Type	ServerView Agent が OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。
OS Version	ServerView Agent が OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。

Processors

プロセッサの各種情報を表示します。

Memory

メモリの搭載容量を表示します。[Memory Modules] をクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます。

[Memory Modules]

メモリに関する各種情報を表示します。

表示 / 設定項目	説明
Memory Module No	メモリモジュールの番号を表示します。
Status	メモリのステータスを表示します。
Module Size	メモリの容量を表示します。
Type	メモリの種類を表示します。
Speed	メモリバスのスピードを表示します。
Socket Designation	メモリが搭載されているソケット位置を表示します。

[Voltage Summary]

サーバブレードのボード上の各種電圧と電圧しきい値の設定を表示します。

表示 / 設定項目	説明
No	電圧センサの番号を表示します。
Status	電圧センサの状態を表示します。
Minimum	電圧の危険下限しきい値を表示します。
Maximum	電圧の危険上限しきい値を表示します。
Nominal	電圧の公称値を表示します。
Current	電圧の現在の値を表示します。
Designation	測定している電圧の種類を表示します。

[Temperature Summary]

サーバブレードのボード上の各種温度と温度しきい値の設定を表示します。

表示 / 設定項目	説明
No	温度センサの番号を表示します。
Status	温度センサの状態を表示します。
Designation	温度センサの測定場所を表示します。
Temperature	温度の現在の値を表示します。
Warning Level	温度の警告しきい値を表示します。
Critical Level	温度の危険しきい値を表示します。

5 CLI について

この章は、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理 / 運用するための CLI (コマンドラインインタフェース) について説明しています。

Contents

5.1 CLI の使用方法	48
5.2 各画面の基本操作	50
5.3 マネジメントブレードの起動およびログイン	50
5.4 マネジメントブレードの各操作方法	51

5.1 CLI の使用方法

ここでは、シリアルインタフェースまたは LAN 経由の Telnet を使用した CLI の使用方法について説明します。

CLI を LAN 経由の Telnet を用いて使用する場合は、以下のソフトウェアを使用することを推奨します。

- RemotecontrolService V3.06 以降

5.1.1 シリアルインタフェースを使用する

- 1 マネジメントブレードと管理端末を RS232C クロスケーブルで接続します。
(『シャーシ取扱説明書』を参照してください)
- 2 管理端末でターミナルソフトウェアを起動して以下のポート設定を行います。

設定項目	設定値
ビット / 秒	115200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

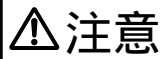
- 3 管理端末でターミナルソフトウェアを [VT100] の設定にします。
設定方法については、お使いのターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。



マスタモードで動作しているマネジメントブレードに対して接続してください。スレーブモードのマネジメントブレードからはアクセスできません。

5.1.2 LAN インタフェース経由の Telnet を使用する

- 1 マネジメントブレードと管理端末を LAN ケーブルで接続します。
(『シャーシ取扱説明書』を参照してください)
- 2 管理端末で Telnet のクライアントソフトを起動して、マネジメントブレードの IP アドレスとポート番号を指定して接続します。
(ポート番号 : デフォルト値 3172)



- Telnet はマネジメントブレードに対して同時に 1 セッションしか開けません。
- Telnet のクライアントソフトは [BVT100] の設定にする必要があります。設定方法については、ご使用のクライアントソフトのマニュアルを参照してください。

5.2 各画面の基本操作

CLI の各ページでは、Enter selection: のあとに画面に表示されている数字を入力して [Enter] キーを押すと、情報の表示や設定、ページ間の移動が行えます。

設定は、画面に表示される指示に従って数字や文字列を入力してください。

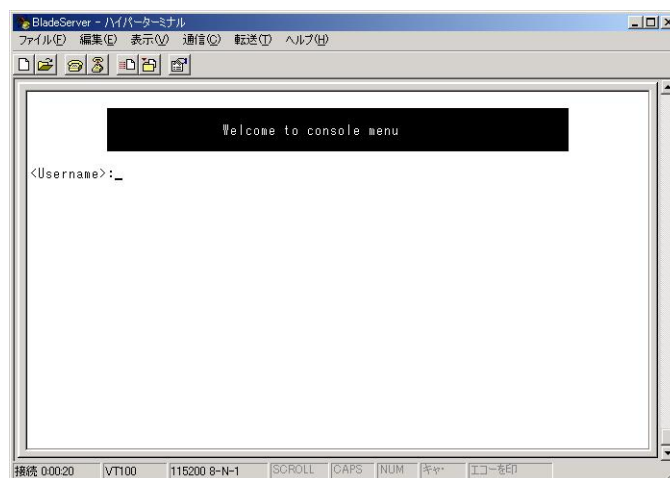
(-) で表示されている項目は情報の表示のみで設定できません。

入力した文字列は、同じ入力画面で [Space] キーを押したあと、[Enter] キーを押すことによって削除することができます。

5.3 マネジメントブレードの起動およびログイン

マネジメントブレードの動作中に管理端末上でターミナルソフトウェアを起動すると、以下のようなログイン画面が表示されます。

マネジメントブレードが動作していない場合は、シャーシの電源ケーブルを接続します。自己診断テストのメッセージが表示され、そのあとログイン画面が表示されます。



ここで <Username>: ユーザ名と <Password>: パスワードを入力することによって CLI にログインすることができます。

5.4 マネジメントブレードの各操作方法

CLI の各種操作方法を解説します。項目については Web UI と大部分が共通なので、項目の詳細は Web UI の章も併せて参照してください。

5.4.1 コンソールメニュー

ログインが終了すると、最初にトップページとしてコンソールメニューが表示されます。

ここでは、コンソールメニューについて説明します。

```
+-----+
|          Console Menu          Page_root          |
+-----+

(1) Management Agent
(2) Emergency Management Port
(3) Console Redirection
(4) TFTP update
(5) Logout
(6) Reboot Management Blade
Enter selection:
```

1. Management Agent

ブレードサーバシステムの各種情報表示や設定を行います（「5.4.2 Management Agent」（52 ページ）参照）。

2. Emergency Management Port

通常では使用しません。

3. Console Redirection

サーバブレード、スイッチブレードのコンソールリダイレクションに使用します（「5.4.3 Console Redirection」（103 ページ）参照）。

4. TFTP update

通常では使用しません。

5. Logout

ログアウトします（「5.4.4 Logout」（106 ページ）参照）。

6. Reboot Management Blade

マネジメントブレードを再起動します (「5.4.5 Reboot」(106 ページ) 参照)。

5.4.2 Management Agent

```
+-----+
|               Management Agent               page_1               |
+-----+

(1) Management Agent Information
(2) Management Blade
(3) System Information
(4) Server Blade
(5) Switch Blade
(6) Username And Password
(7) Blue Screen
(8) Event Log
(9) Set System Default
(10) Server Blade CMOS Backup/Restore
(11) Deployment Parameter
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Management Agent Information

マネジメントブレードで動作している HTTP や SNMP などの各種エージェントの設定を行います (「 Agent Information」(53 ページ) 参照)。

2. Management Blade

マネジメントブレードの各種情報を表示します (「 Management Blade」(62 ページ) 参照)。

3. System Information

システム情報の確認と設定を行います (「 System Information」(64 ページ) 参照)。

4. Server Blade

サーバブレードの各種設定と情報表示が行えます (「 Server Blade」(75 ページ) 参照)。

5. Switch Blade

スイッチブレードの各種情報表示が行えます (「 Switch Blade」(90 ページ) 参照)。

6. Username And Password

ユーザの追加やパスワードの設定が行えます (「 Username And Password」(92 ページ) 参照)。

7. Blue Screen

通常は使用しません。

8. Event Log

各種イベントログの表示やクリアを行えます (「 Event Log 」(94 ページ) 参照)

9. Set System Default

マネジメントブレードの設定をデフォルト値に戻します (「 Set System Default 」(97 ページ) 参照)

10. Server Blade CMOS Backup/Restore

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避や復元処理を行います (「 Server CMOS Backup/Restore 」(98 ページ) 参照)

11. Deployment Parameter

デプロイメント用のパラメータの各種設定と表示を行います (「 Deployment Parameter 」(101 ページ) 参照)

Agent Information

マネジメントブレードで動作する各種エージェントの設定を行います。

```
+-----+
|          Agent Information          page_1_1          |
+-----+
(1) Set Management Agent IP Address      : 192.168.1.1
(2) Set Management Agent Network Mask    : 255.255.255.0
(3) Set Management Agent Gateway         : 0.0.0.0
(4) Set Management Agent DHCP Configure  : disable
(5) Set Time Zone : (GMT+9)  Osaka, Sapporo, Tokyo
(6) Set Management Agent Date Time       : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(7) Set Management Agent Timeout(Sec)    : 900
(8) Set Management Agent System Name     :
(9) Set Management Agent System Location :
(10) Set Management Agent System Contact :
(-) Management Agent Administrative URL   : http://192.168.1.1:80/
(12) Agent HTTP
(13) Agent SNMP
(14) Agent Telnet
(15) Agent DNS
(16) Agent SMTP
(17) Change Management Role To Slave
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set Management Agent IP Address

マネジメントブレードの IP アドレスの値が設定できます。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります (設定必須。デフォルト値 : 192.168.1.1)

2. Set Management Agent Network Mask

マネジメントブレードのサブネットマスクの値の設定ができます。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります（設定必須。デフォルト値：255.255.255.0）。

3. Set Management Agent Gateway

マネジメントブレードのゲートウェイの値が設定できます。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

4. Set Management Agent DHCP Configure

DHCP サーバを使用するかどうか設定できます。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

- enable
マネジメントブレードの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを DHCP サーバから設定します。
- disable
DHCP サーバで設定しません。

5. Set Time Zone

マネジメントブレードのタイムゾーンを設定します。タイムゾーンテーブルをサポートします。

6. Set Management Agent Date Time

マネジメントブレードの時刻を設定します。＜月 / 日 / 西暦 時 : 分 : 秒＞の形式で入力します。

7. Set Management Agent Timeout(Sec)

コンソールログインのタイムアウト値の設定をします。操作が設定された秒数の間に行われなかった場合に自動的にログイン画面に戻ります。30 ~ 65535 秒の間で設定できます。0 を設定するとこの自動切断機能は無効になります。

8. Set Management Agent System Name

SNMP で装置を識別するためにマネジメントブレードのシステム名を設定できます。ServerView を使用する場合は設定してください（推奨）。

9. Set Management Agent System Location

SNMP での装置の管理作業のためにマネジメントブレードのロケーション（設置場所）を設定できます。

10. Set Management Agent System Contact

SNMP での装置の管理作業のため連絡先（コンタクト）を設定できます。

Management Agent Administrative

Web UI にアクセスする URL を表示します。

12. Agent HTTP

マネジメントブレード上の HTTP エージェントの設定を行います。

```
+-----+
|           Agent HTTP           page_1_1_12           |
+-----+

(1) Set HTTP Enable      : enable
(2) Set HTTP Port       : 80
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set HTTP Enable

HTTP サービスの有効 / 無効を設定します。この設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。HTTP サービスを無効にした場合は Web UI は使用できません。

- enable
HTTP サービスを有効にします。
- disable
HTTP サービスを無効にします。

2. Set HTTP Port

HTTP のポート番号を設定します。この設定は 10 秒後に有効になります (デフォルト値 : 80)。

13. Agent SNMP

マネジメントブレード上の SNMP エージェントの設定を行います。

```
+-----+
|          Agent SNMP          page_1_1_13          |
+-----+

(1) Set Agent SNMP Enable : enable
(2) Set Agent SNMP Security Enable : disable
(3) Agent SNMP Trap Table
(4) Agent SNMP Community String Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set Agent SNMP Enable

SNMP サービスの有効 / 無効を設定します。ServerView などの SNMP で通信するアプリケーションを使用する場合は、有効に設定してください。

- enable
SNMP エージェントを有効にします。
- disable
SNMP エージェントを無効にします。

2. Set Agent SNMP Security Enable

SNMP Security は ServerView で [システム識別灯表示ボタン] を使用した場合にユーザ名とパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

- enable
SNMP Security を有効にします。
- disable
SNMP Security を無効にします。

3. Agent SNMP Trap Table

SNMP トラップの送信先のテーブルが設定 / 表示ができます。
数字を選択すると SNMP トラップの送信先の IP アドレスを設定することができます。

```
+-----+
|          Agent SNMP Trap Table          page_1_1_13_3          |
+-----+

(1) Agent SNMP Trap 1 : 0.0.0.0
(2) Agent SNMP Trap 2 : 0.0.0.0
(3) Agent SNMP Trap 3 : 0.0.0.0
(4) Agent SNMP Trap 4 : 0.0.0.0
(5) Agent SNMP Trap 5 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
```

また、各 IP アドレスに対して [SNMP Trap Community String] を設定することができます。

4. Agent SNMP Community String Table

SNMP コミュニティ名の設定 / 表示ができます。

```
+-----+
|          Agent SNMP Community String          page_1_1_13_4          |
+-----+

(1) SNMP Community String 1 :
(2) SNMP Community String 2 :
(3) SNMP Community String 3 :
(4) SNMP Community String 4 :
(5) SNMP Community String 5 :
Enter selection or type (0) to quit:
```



注意

ServerView や SystemcastWizard などの SNMP で通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必須になります。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

14. Agent Telnet

マネジメントブレード上の Telnet エージェントの設定を行います。

```
+-----+
|               Agent TELNET               page_1_1_14               |
+-----+

(1) Set Telnet Enable      : enable
(2) Set Telnet Port       : 3172
(3) Telnet IP Filter Table
(4) Telnet Disconnection
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set Telnet Enable

Telnet サービスの有効 / 無効を設定します。設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

- enable
Telnet サービスを有効にします。
- disable
Telnet サービスを無効にします。

2. Set Telnet Port

Telnet のポート番号を設定します (デフォルト値 3172)。
設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

3. Telnet IP Filter Table

Telnet サービスを許可する IP の設定を行います。

Telnet を許可する IP を最大 10 個まで登録することができます。

工場出荷時に登録されている 255.255.255.255 は IP のフィルタリングを行いません。IP フィルタリングを行う場合は削除してください。

```
+-----+
|               Telnet IP Filter Table               page_1_1_14_3       |
+-----+

(1) Telnet IP Filter 1 : 255.255.255.255
(2) Telnet IP Filter 2 : 0.0.0.0
(3) Telnet IP Filter 3 : 0.0.0.0
(4) Telnet IP Filter 4 : 0.0.0.0
(5) Telnet IP Filter 5 : 0.0.0.0
(6) Telnet IP Filter 6 : 0.0.0.0
(7) Telnet IP Filter 7 : 0.0.0.0
(8) Telnet IP Filter 8 : 0.0.0.0
(9) Telnet IP Filter 9 : 0.0.0.0
(10)Telnet IP Filter 10: 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
```

4. Telnet Disconnection

Telnet 接続しているコネクションを強制的に切ります。操作は画面の表示に従って行ってください。

15. Agent DNS

マネジメントブレードの DNS の設定を行います。

```
+-----+
|               Agent Network DNS               page_1_1_15       |
+-----+

(1) Set DNS IP Address_1 : 0.0.0.0
(2) Set DNS IP Address_2 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
```


1. Set DNS IP Address_1

DNS サーバ 1 の IP アドレスを入力します。

2. Set DNS IP Address_2

DNS サーバ 2 の IP アドレスを入力します。

16. Agent SMTP

マネジメントブレードの SMTP 機能 (アラームハンドラ) の設定を行います。

```
+-----+
|               Agent SMTP               page_1_1_16               |
+-----+

(1) Set Agent SMTP ENABLE                  : enable
(2) Set Agent SMTP Relay Server Domain Name :
(3) Set Agent SMTP Sender E-mail Address   :
(4) Agent SMTP User Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set Agent SMTP ENABLE

SMTP を使用してイベントを電子メールで送付するかどうか設定します。設定は再起動後に有効になります。

- enable
SMTP を使用します。
- disable
SMTP を使用しません。

2. Set Agent SMTP Relay Server Domain Name

SMTP サーバの IP アドレスを入力します。

3. Set Agent SMTP Sender E-mail Address

送信側の電子メールアドレスを入力します。

4. Agent SMTP User Table

イベントを受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。

```
+-----+
|          Agent SMTP User Table          page_1_1_16_4          |
+-----+

(1) Agent SMTP User 1 :
(2) Agent SMTP User 2 :
(3) Agent SMTP User 3 :
(4) Agent SMTP User 4 :
(5) Agent SMTP User 5 :
Enter selection or type (0) to quit:
```

17. Change Management Role To Slave

マネジメントブレードが冗長構成の時に動作モードを強制的に Slave モードに変更します。通常は使用しないでください。

5

CLI に ついて

Management Blade

搭載されているマネジメントブレードとその動作モードが表示されます。
マネジメントブレードを選択すると各種情報を表示します。

```
+-----+
|           Management Blade           page_1_2           |
+-----+

(1) Management Blade_1 : master
(2) Management Blade_2 : slave
Enter selection or type (0) to quit:
```

Management Blade_1, 2

マネジメントブレードの各種情報を表示します。

```
+-----+
|           Management Blade           page_1_2_1           |
+-----+

(-) Management Blade Run Mode           : master
(-) Management Blade Status              : xx
(-) Management Blade Manufacture         : xx
(-) Management Blade Manufacture Date    : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(-) Management Blade Serial Number       : xx
(-) Management Blade Product Name        : xx
(-) Management Blade Model Name          : xx
(-) Management Blade Hardware Version    : xx
(-) Management Blade Firmware Version    : xx
(-) Management MAC Address                : xx:xx:xx:xx:xx:xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

Management Blade Run Mode

マネジメントブレードの動作モードを表示します。

- master
マネジメントブレードがマスタとして動作して、シャーシの管理を行っています。
- slave
マネジメントブレードがスレーブとして動作しています。マスタに異常が起こった場合のための待機モードです。

Management Blade Status

マネジメントブレードのステータスを表示します。

Management Blade Manufacture

製造元を表示します。

Management Blade Manufacture Date

製造年月日を表示します。

Management Blade Serial Number

シリアル番号を表示します。

Management Blade Product Name

製品名を表示します。

Management Blade Model Name

モデル名を表示します。

Management Blade Hardware Version

ハードウェア版数を表示します。

Management Blade Firmware Version

ファームウェアの版数を表示します。

Management MAC Address

LAN インタフェースに使用している MAC アドレスを表示します。

System Information

System Information は電源ユニットやシステムファンユニット、温度などのブレードサーバシステムのステータスと構成情報を確認 / 設定できます。

```
+-----+
|               System Information               page_1_3               |
+-----+

(1) System Control Information
(2) System Power Supply
(3) System Fan
(4) System Temperature
(5) System Chassis Table
(6) System LED Control : off
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. System Control Information

システムの情報を表示します。

```
+-----+
|               System Control Information               page_1_3_1               |
+-----+

(-) System Name           : BX300
(-) Number of Fans        : xx
(-) Number of Temperature Sensors : xx
(-) Number of Power Supply Unit : xx
(-) System Housing Type   : BX300
(-) System Overall Status : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

System Name

システムの名前を表示します。

Number of Fans

シャーシに搭載されているファンの数を表示します。

Number of Temperature Sensors

シャーシに搭載されている温度センサの数を表示します。

Number of Power Supply Unit

シャーシに搭載されている電源ユニットの数を表示します。

System Housing Type

シャーシのタイプを表示します。

System Overall Status

システム全体のステータスを表示します。

2. System Power Supply

```
+-----+
|               System Power Supply               page_1_3_2               |
+-----+

(1) System Power Supply Control      : on
(-) System Power Supply Status      : xx
(-) System Power Supply Redundancy  : xx
(4) System Power Supply Unit Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. System Power Supply Control

シャーシのメイン電源の電源状態を制御します。使用する場合は「A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項」(111 ページ) を参照してください。

- ON
シャーシのメイン電源を入れます。
- OFF
シャーシのメイン電源を切ります。
- ACPI shutdown
サーバブレードの OS に ACPI shutdown 信号を送ってからメイン電源を切ります。

System Power Supply Status

電源全体のステータスを表示します。

System Power Supply Redundancy

冗長化された電源ユニットの数を表示します。

4. System Power Supply Unit Table

選択すると搭載されている電源ユニットの一覧を表示します。番号を選択するとさらに詳しい情報が表示されます。

```
+-----+
|      System Power Unit Status Table      page_1_3_2_4   |
+-----+

(1) Power Supply Unit 1 : xx
(2) Power Supply Unit 2 : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----+
|      System Power Supply Unit Table      page_1_3_2_4_1   |
+-----+

(-) System Power Supply Unit Status           : xx
(-) System Power Supply Unit Manufacture       : xx
(-) System Power Supply Unit Product Name      : xx
(-) System Power Supply Model Name            : xx
(-) System Power Supply Product Version       : xx
(-) System Power Supply Serial Number         : xx
(-) System Power Supply Live Time             : xx
(8) System Power Supply Live Time Reset       : reset
(9) Power Supply Live Time Limited Count      : 26000
Enter selection or type (0) to quit:
```

System Power Supply Unit Status

電源ユニットのステータスを表示します。

System Power Supply Unit Manufacture

電源ユニットの製造元を表示します。

System Power Supply Unit Product Name

電源ユニットの製品名を表示します。

System Power Supply Model Name

電源ユニットのモデル名を表示します。

System Power Supply Product Version

電源ユニットのプロダクトバージョンを表示します。

System Power Supply Serial Number

電源ユニットのシリアル番号を表示します。

System Power Supply Live Time

電源ユニットの稼働時間を表示します。

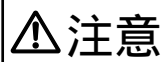
8. System Power Supply Live Time Reset

電源ユニットの稼働時間を 0 にします。電源ユニットを交換した場合は選択して稼働時間を 0 に設定してください。

9. Power Supply Live Time Limited Count

電源ユニットの寿命時間を表示 / 設定します。通常は設定の変更は行わないでください。

- 電源ユニットの定期交換について



電源 / ダミー電源ユニットは定期交換部品です (『シャーシ取扱説明書』を参照してください)。定期交換後は設定の変更を行ってください (『Environment/Maintenance』(26 ページ) も参照してください)。

3. System Fan

```
+-----+
|               System Fan               page_1_3_3               |
+-----+

(1) System Fans Table
(2) System Fans Live Time Table
(3) Set System Fans Daily Test Time : disabled
(4) Fan Test At Every Start-up      : disable
(-) System Fans Overall Status      : ok
Enter selection or type (0) to quit:
```


1. System Fans Table

シャーシと電源ユニットに搭載されているファンのテーブルが表示されます。

ファンの番号を選択するとそのファンの設定と情報の表示を行うことができます。

```
+-----+
|               System Fan           page_1_3_3_1               |
+-----+

(1) System Fan 1 : Front-Fan-1
(2) System Fan 2 : Front-Fan-2
(3) System Fan 3 : Front-Fan-3
(4) System Fan 4 : Front-Fan-4
(5) System Fan 5 : Front-Fan-5
(6) System Fan 6 : Rear-Fan-1
(7) System Fan 7 : Rear-Fan-2
(8) System Fan 8 : PowerUnit1-Fan-1
(9) System Fan 9 : PowerUnit1-Fan-2
(10) System Fan 10: PowerUnit1-Fan-3
(11) System Fan 11: PowerUnit2-Fan-1
(12) System Fan 12: PowerUnit2-Fan-2
(13) System Fan 13: PowerUnit2-Fan-3
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----+
|               System Fan           page_1_3_3_1_1             |
+-----+

(1) System Fan Fail Reaction      : continue
(-) System Fan Designation       : Front-Fan-1
(-) System Fan Status            : xx
(-) System Fan Current Speed     : xx
(-) System Nominal Maximum Speed : xx
(-) System Current Maximum Speed : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. System Fan Fail Reaction

各ファンに対して以下のアクションを設定することができます。

- continue

ファン故障時にもサーバを継続稼働させます。

- shutdown-power off

ファン故障発生時にシャーシのメイン電源の ACPI shutdownを行います。

System Fan Designation

各ファンの場所を表示します。

- Front-Fan-1 ~ 5 : フロントファンユニット内蔵ファン
- Rear-Fan-1 ~ 2 : リアファンユニット内蔵ファン
- PowerUnit1, 2-Fan-1 ~ 3 : 電源ユニット内蔵ファン
(1 : 電源冷却用ファン、2, 3 : リア部システムファンユニット)

System Fan Status

各ファンのステータスを表示します。

System Fan Current Speed

各ファンの現在の回転数を表示します。

System Nominal Maximum Speed

各ファンの公称最大回転数を表示します。

System Current Maximum Speed

各ファンの最大回転数を表示します。

2. System Fans Live Time Table

システムファンユニットの稼働時間の一覧です。システムファンユニットを選択すると、そのシステムファンユニットの稼働時間に関する設定と情報の表示を行うことができます。

```

+-----+
|               System Fan               page_1_3_3_2_1               |
+-----+
(-) Fan Live Time                      : 0
(2) Fan Live Time Reset                  : reset
(3) Fan Live Time Limited Count          : 26000
Enter selection or type (0) to quit:

```

Fan Live Time

システムファンユニットの稼働時間を表示します。

2. Fan Live Time Reset

システムファンユニットの稼働時間を 0 にします。システムファンユニットを交換した場合は選択して稼働時間を 0 に設定してください。

3. Fan Live Time Limited Count

システムファンユニットの寿命時間を表示 / 設定します。通常は設定の変更は行わないでください。

3. Set System Fans Daily Test Time

システムファンの動作テストを毎日行う場合の時刻を設定します。

- <hh:mm>
時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。
- disable
動作テストを行いません。

4. Fan Test At Every Start-up

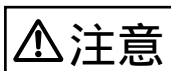
システムファンの動作テストをファンの動作開始時に毎回行うかどうか設定します。

- enable
動作テストを行います。
- disable
動作テストを行いません。

System Fans Overall Status

システムファン全体のステータスが表示されます。

- システムファンユニットの定期交換について



システムファンユニットは定期交換部品です (『シャーシ取扱説明書』を参照してください)。定期交換後は設定の変更を行ってください (「[Fans]」(29 ページ) も参照してください)。

4. System Temperature

```
+-----+
|               System Temperature               page_1_3_4               |
+-----+

(1) System Temperature Sensor Table
(-) System Temperature Overall Status : ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. System Temperature Sensor Table

温度センサの番号を選択するとその温度センサの設定と情報の表示を行うことができます。

```
+-----+
|               System Temperature               page_1_3_4_1               |
+-----+

(1) System Temperature Sensor 1 : Housing-Left
(2) System Temperature Sensor 2 : Housing-Center
(3) System Temperature Sensor 3 : Housing-Right
(4) System Temperature Sensor 4 : Ambient
(5) System Temperature Sensor 5 : Switch-1
(6) System Temperature Sensor 6 : Switch-2
(7) System Temperature Sensor 7 : Switch-3
(8) System Temperature Sensor 8 : Switch-4
Enter selection or type (0) to quit:
```

```

+-----+
|               System Temperature               page_1_3_4_1_1               |
+-----+

(1) System Temperature Critical Reaction          : continue
(-) System Temperature Sensor Designation        : Housing-Left
(-) System Temperature Sensor Status             : xx
(-) System Temperature Upper Warning Level       : xx
(-) System Temperature Upper Critical Level      : xx
(-) System Temperature Current Value             : xx
Enter selection or type (0) to quit:

```

1. System Temperature Critical Reaction

各温度センサに対して以下のアクションを設定することができます。

- continue
温度異常時にもサーバを継続稼働させます。
- shutdown-power off
温度異常の発生時にシャーシのメイン電源のACPI shutdownを行います。

System Temperature Sensor Designation

各温度センサの場所を表示します。

- Housing-Left, Center, Right : 筐体の左側、中央、右側 (筐体前面視)
- Ambient : フロントファンユニット内部
- Switch-1 ~ 4 : スイッチブレード内部

System Temperature Sensor Status

各温度センサのステータスを表示します。

System Temperature Current Value

各温度センサの現在の測定値を表示します。

Set System Temperature Upper Warning Level

温度の警告しきい値を表示します。

Set System Temperature Upper Critical Level

温度の危険しきい値を表示します。

System Temperature Overall Status

システム全体の温度センサのステータスを表示します。

5. System Chassis Table

シャーシのシステムファンのステータスとシリアル番号を表示します。

System Chassis Intrusion Table

```
+-----+
|               System Chassis               page_1_3_5 |
+-----+

(1) System Chassis Intrusion Table
(-) System Chassis Serial Number : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

(1) を選択するとフロント / リアファンユニットの挿抜状態が表示されます。

```
+-----+
| Chassis Intrusion (Sensor_1:Front, Sensor_2:Rear) page_1_3_5_1 |
+-----+

(-) System Chassis Intrusion Sensor_1 : xx
(-) System Chassis Intrusion Sensor_2 : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

Sensor_1: フロントファンユニット、Sensor_2: リアファンユニットのドアステータスが表示されます。

- close
ファンユニットが取り付けられています。
- open
ファンユニットが取り外されています。

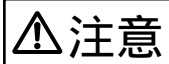
System Chassis Serial Number

シャーシのシリアル番号を表示します。

6. System LED Control

システム識別灯表示機能として、シャーシの保守ランプの状態を制御できます。

- on
シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させます。
- off
シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させません。
- blinking
シャーシ前面と背面の保守ランプを点滅させます。



System Overall Status が error または critical 状態の時は on を指示しても blinking します。

Server Blade

サーバブレードに関する各種設定や情報の表示を行います。
選択すると以下のページが開きます。

```
+-----+
|          Server Control Information Table          page_1_4          |
+-----+

(1) Server Blade_1: ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各サーバブレードがすべて表示されます、設定や情報表示したいサーバブレードの番号を選択すると以下の画面が表示されます。

```
+-----+
|          Server Blade          page_1_4_1          |
+-----+

(1) Server Blade Control Information
(2) Server Blade Information
(3) Server Blade CPU
(4) Server Blade Memory
(5) Server Blade Voltage Table
(6) Server Blade Temperature
(7) Server Blade NIC Information
(8) Server Blade Watch Dog
Enter selection or type (0) to quit:
```


1. Server Blade Control Information

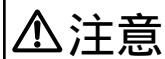
```
+-----+
|          Server Blade Control          page_1_4_1_1          |
+-----+

(1) Server power                      : on
(2) Set Server Maximum Restart Retries : 3
(3) Set Server Boot Mode               : normal
(4) Server LED Control                 : off
(-) Server CPU Mode                    : performance
(-) Server Administrative URL           :
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Server power

サーバブレードの電源の設定を行います。

- on
サーバブレードの電源を入れます。
- off
サーバブレードの電源ボタンを押した場合と同等の動作をします。
Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となります。使用する場合は「A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項」(111 ページ) を参照してください。
- power-cycle
サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れます。
- reset
サーバブレードを再起動します。
- NMI
通常は選択しないでください。
- force-off
サーバブレードの電源を強制的に切ります。



サーバブレードの電源切断を指示したあと、電源 ON を指示する場合はサーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

2. Set Server Maximum Restart Retries

OS 起動に失敗した場合に、何回リトライするか設定します。

- 0
リトライを行いません。
- 1 ~ 7 回
設定した回数リトライします。

3. Set Server Boot Mode

サーバブレードの OS ブート時のブート方法を設定します。

- normal
サーバブレードのブートオーダーを BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。
- pxe-lan-1
サーバブレードのブートオーダーの先頭を LAN ポート 1 を使用して PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。
- pxe-lan-2
サーバブレードのブートオーダーの先頭を LAN ポート 2 を使用して PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。

4. Server LED Control

サーバブレード判別機能として電源ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のサーバブレードの判別に使用します。

- blinking
サーバブレードの電源ランプを点滅させます。
- off
サーバブレード電源ランプの制御を行いません。

Server CPU Mode

サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。

- Performance
サーバブレードに搭載されている CPU は Performance モードで動作しています。
- not-ready
CPU は動作していません。

Server Administrative URL

現在は使用しません。

2. Server Blade Information

サーバブレードの情報を表示します。

```
+-----+
|          Server Blade Information          page_1_4_1_2          |
+-----+

(-) Server Blade Status           : xx
(-) Server Blade Manufacture      : xx
(-) Server Blade Manufacture Date : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(-) Server Blade Serial Number    : XX
(-) Server Blade Product Name     : XX
(-) Server Blade Model Name       : XX
(-) Server Blade Hardware Version : XX
(-) Server Blade BIOS Version     : XX
(-) Number Of CPU Socket          : XX
(-) Number Of Memory Socket       : XX
(-) Server Blade OS Type          : XX
(-) Server Blade OS Version       : XX
(-) Server Blade BMC Firmware Version : XX
Enter selection or type (0) to quit:
```

Server Blade Status

サーバブレードのステータスを表示します。

Server Blade Manufacture

製造元を表示します。

Server Blade Manufacture Date

製造年月日を表示します。

Server Blade Serial Number

シリアルナンバーを表示します。

Server Blade Product Name

製品名を表示します。

Server Blade Model Name

モデル名を表示します。

Server Blade Hardware Version

ハードウェアの版数を表示します。

Server Blade BIOS Version

BIOS の版数を表示します。

Number Of CPU Socket

CPU ソケットの数を表示します。

Number Of Memory Socket

搭載されているメモリモジュールソケットの数を表示します。

Server Blade OS Type

ServerView Agent が OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。

Server Blade OS Version

ServerView Agent が OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。

Server Blade BMC Firmware Version

BMC (Baseboard Management Controller : ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ) のファーム版数を表示します。

3. Server Blade CPU

サーバブレードに搭載される CPU に関する情報を表示します。

```
+-----+
|          Server Blade CPU Table          page_1_4_1_3          |
+-----+

(1) CPU 1 : ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載している CPU のステータスを表示します。番号を選択すると CPU の詳しい情報を表示します。

```
+-----+
|      Server Blade CPU Information      page_1_4_1_3_1      |
+-----+

(-) CPU Type           : xx
(-) CPU Frequency      : xx
(-) CPU Step           : xx
(-) CPU Status         : xx
(-) CPU Name           : xx
(-) CPU Socket Designation : xx
(-) CPU Manufacturer   : xx
(-) CPU CLock          : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

CPU Type

CPU のタイプを表示します

CPU Frequency

CPU の周波数を表示します。

CPU Step

CPU のステッピングを表示します。

CPU Status

CPU のステータスを表示します。

CPU Name

CPU の種類を表示します。

CPU Socket Designation

CPU のソケットの場所を表示します。

CPU Manufacturer

CPU の製造元を表示します。

CPU CLock

CPU バスの動作周波数を表示します。

4. Server Blade Memory

サーバブレードに搭載されているメモリモジュールに関する情報を表示します。

```
+-----+
|          Server Blade Memory          page_1_4_1_4          |
+-----+

(1) Server Blade Memory Information Table
(2) Server Blade Memory Modules Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Server Blade Memory Information Table

メモリの総容量を表示します。

```
+-----+
|          Memory Information Table          page_1_4_1_4_1          |
+-----+

(-) Physical Memory Size      : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

5

CLI に つ いて

2. Server Blade Memory Modules Table

搭載されているメモリモジュールのステータスが表示されます。番号を選択するとさらに詳しい情報が表示されます。

```
+-----+
|  Server Blade Memory Module Table      page_1_4_1_4_2  |
+-----+

(1) Memory Module 1 : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----+
|  Memory Module Information Table      page_1_4_1_4_2_1  |
+-----+

(-) Memory Module Status          : xx
(-) Memory Module Size            : xx
(-) Memory Module Type            : xx
(-) Memory Module Socket Designation : xx
(-) Memory Module Speed           : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

Memory Module Status

メモリモジュールのステータスを表示します。

Memory Module Size

メモリモジュールの容量を表示します。

Memory Module Type

メモリモジュールのタイプを表示します。

Memory Module Socket Designation

メモリが搭載されている位置を表示します。

Memory Module Speed

メモリバスの動作周波数を表示します。

5. Server Blade Voltage Table

サーバブレードの電圧に関する情報を表示します。
測定している電圧が表示されます。番号を選択するとさらに詳しい情報が表示されます。

```
+-----+
|          Server Voltage Table          page_1_4_1_5          |
+-----+

(1) Voltage ID 1 : CPU VTT
(2) Voltage ID 2 : CPU2 VID
(3) Voltage ID 3 : CPU1 VID
(4) Voltage ID 4 : VCC 3.3V
(5) Voltage ID 5 : VCC 2.75V
(6) Voltage ID 6 : VCC 5.0V
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----+
|  Server Voltage Information Table      page_1_4_1_5_1      |
+-----+

(-) Server Voltage Designation   : CPU VTT
(-) Server Voltage Status        : xx
(-) Server Voltage Minimum Value : xx
(-) Server Voltage Maximum Value : xx
(-) Server Voltage Current Value  : xx
(-) Server Voltage Nominal Value  : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

Server Voltage Designation

電圧センサの場所を表示します。

Server Voltage Status

電圧センサのステータスを表示します。

Server Voltage Minimum Value

電圧の危険下限しきい値を表示します。

Server Voltage Maximum Value

電圧の危険上限しきい値を表示します。

Server Voltage Current Value

電圧の現在の値を表示します

Server Voltage Nominal Value

電圧の公称値を表示します。

6. Server Blade Temperature

サーバブレード上の温度に関する情報を表示します。

測定している温度が表示されます。数値を選択するとさらに詳しい情報が表示されます。

```
+-----+
|           Server Temperature           page_1_4_1_6           |
+-----+

(1) Temperature Sensor ID 1 : SYSTEM TEMP1
(2) Temperature Sensor ID 2 : SYSTEM TEMP2
(3) Temperature Sensor ID 3 : CPU1 TEMP
(4) Temperature Sensor ID 4 : CPU2 TEMP
Enter selection or type (0) to quit:
```

```
+-----+
| Server Temperature Sensor Information Table      page_1_4_1_6_1 |
+-----+

(-) Server Temperature Sensor Designation : SYSTEM TEMP1
(-) Server Temperature Sensor Status      : xx
(-) Server Temperature Upper Warning Level : xx
(-) Server Temperature Upper Critical Level : xx
(-) Server Temperature Current Value       : xx
Enter selection or type (0) to quit:
```

Server Temperature Sensor Designation

温度センサの場所を表示します。

Server Temperature Sensor Status

温度センサのステータスを表示します。

Server Temperature Upper Warning Level

温度の警告しきい値を表示します。

Server Temperature Upper Critical Level

温度の危険しきい値を表示します。

Server Temperature Current Value

温度センサの現在の値を表示します。

7. Server Blade NIC Information

サーバブレードのオンボードの NIC の情報を表示します。

```
+-----+
|          Server NIC Information          page_1_4_1_7          |
+-----+

(1) Server Blade NIC IP Table
(2) Server Blade MAC Address Table
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Server Blade NIC IP Table

ServerView Agent が OS にインストールされている場合、サーバブレードの IP アドレスを表示します。

```
+-----+
|          Server Blade NIC IP          page_1_4_1_7_1          |
+-----+

(-) IP1 : X.X.X.X
(-) IP2 : X.X.X.X
Enter selection or type (0) to quit:
```

2. Server Blade MAC Address Table

サーバブレードの MAC アドレスを表示します。

```
+-----+
|          Server Blade MAC Address          page_1_4_1_7_2          |
+-----+

(-) NIC1 : XX:XX:XX:XX:XX:XX
(-) NIC2 : XX:XX:XX:XX:XX:XX
Enter selection or type (0) to quit:
```

8. Server Blade Watch Dog

サーバブレードの Watch Dog に関する設定を行います。

```
+-----+
|          Server Blade Watchdog          page_1_4_1_8          |
+-----+

(1) Server Blade Software Watchdog
(2) Server Blade Boot Watchdog
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Server Blade Software Watchdog

サーバブレードの OS ハング監視機能について表示します。
設定は ServerView で行います。

```

+-----+
| Software Watchdog Information           page_1_4_1_8_1 |
+-----+

(-) Software Watchdog Time      : 0.00
(-) Software Watchdog Action    : not-ready
(-) Software Watchdog Status    : disable
Enter selection or type (0) to quit:

```

Software Watchdog Time

OS ハング時のタイムアウト時間を表示します。

Software Watchdog Action

サーバブレードの OS ハング時のアクションを表示します。

Software Watchdog Status

ソフトウェアウオッチドッグのステータスを表示します。

2. Server Blade Boot Watchdog

サーバブレードの OS 起動監視を行います。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。

```

+-----+
| Boot Watchdog Information             page_1_4_1_8_2 |
+-----+

(1) Set Boot Watchdog Time      : 10 minutes
(2) Set Boot Watchdog Enable    : disable
(3) Set Boot Watchdog Action    : reboot
Enter selection or type (0) to quit:

```

1. Set Boot Watchdog Time

設定された時間に従い OS 起動失敗を監視します。

- 2 minutes / 5 minutes / 10 minutes / 15 minutes / 20 minutes / 30 minutes / 60 minutes / 100 minutes

2. Set Boot Watchdog Enable

OS 起動失敗について設定します。

- enable
OS の起動を監視します。
- disable
OS の起動を監視しません。

3. Set Boot Watchdog Action

OS の起動が失敗した時のアクションを設定します。

- reboot
サーバブレードを再起動します。
- off
サーバブレードの電源を切ります。
- power-cycle
サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れます。



ポイント

「OS ブート監視」機能の有効 / 無効は ServerView から設定できます。

注意

- OS に ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- OS に ServerView をインストールしている場合にも、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- 本機能の設定時には ServerView の CD-ROM 内の『ServerView ユーザーズガイド』をご覧になり、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

Switch Blade

スイッチブレードの各種情報を表示します。

```
+-----+
|          Switch Blade Name Table          page_1_5          |
+-----+

(1) Switch Blade_1: ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各スイッチブレードが表示されます。情報表示したいスイッチブレードの数値を選択すると以下の画面が表示されます。

```
+-----+
|          Switch Blade Information          page_1_5_1        |
+-----+

(-) Administrative URL           : http://x.x.x.x/
(-) Switch Blade Status          : xx
(-) Switch Blade Manufacture     : xx
(-) Switch Blade Manufacture Date : MM/DD/YYYY HH:DD:SS
(-) Switch Blade Serial Number   : xx
(-) Switch Blade Product Name    : xx
(-) Switch Blade Model Name      : xx
(-) Switch Blade Hardware Version : xx
(-) Switch Blade Firmware Version : xx
(-) Switch Blade MAC Address     : xx:xx:xx:xx:xx:xx
(-) Switch Blade IP Address      : x.x.x.x
(12) Switch Blade LED Control    : off
Enter selection or type (0) to quit:
```

Administrative URL

スイッチブレードの Web インタフェースの URL が表示されます。

Switch Blade Status

スイッチブレードのステータスを表示します。

Switch Blade Manufacture

製造元を表示します。

Switch Blade Manufacture Date

製造年月日を表示します。

Switch Blade Serial Number

シリアルナンバーを表示します。

Switch Blade Product Name

製品名を表示します。

Switch Blade Hardware Version

ボードの版数を表示します。

Switch Blade Firmware Version

ファームウェアの版数を表示します。

Switch Blade MAC Address

スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの MAC アドレスを表示します。

Switch Blade IP Address

スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの IP アドレスを表示します。

12. Switch Blade LED Control

スイッチブレード判別機能として、スイッチブレードの保守ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードの判別に使用します。

- blinking
スイッチブレード保守ランプを点滅させます。
- off
スイッチブレード保守ランプを制御しません。

Username And Password

ユーザの追加やパスワードの設定が行えます。

```
+-----+
|               User ID List               page_1_6               |
+-----+

(1) User_1 : root
(2) User_2 :
(3) User_3 :
(4) User_4 :
(5) User_5 :
(6) User_6 :
(7) User_7 :
(8) User_8 :
(9) User_9 :
(10) User_10:
Enter selection or type (0) to quit:
```

変更したいユーザを選択すると以下の画面が表示されます。

```
+-----+
|               Edit Username And Password               page_1_6_1               |
+-----+

(1) Change Username : root
(2) Change Password : ****
(3) User Permission : administrator
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Change Username

変更したいユーザ名を入力します。

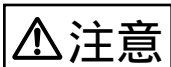
2. Change Password

変更したいパスワードを入力します。

3. User Permission

ユーザの権限を設定します。

- read only
設定の読み取り専用です。
- read write
設定の読み書きができます。
- administrator
管理者 (Root) の権限を持ちます。



パスワードは最長 16 文字まで設定できます。また、大文字と小文字は区別されます。

Blue Screen

通常は使用しません。

Event Log

サーバブレードとマネジメントブレードのイベントログが確認できます。

```
+-----+
|               Event Log               page_1_8               |
+-----+

(1) Management Blade Event Log
(2) Server Blade Event Log Table
(3) Server Blade Power On/Off Event Log Enable : disable
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Manage Blade Event Log

マネジメントブレードのログが確認できます。

2. Server Blade Event Log Table

シャーシに搭載されている個々のサーバブレードのログが確認できます。
選択後に以下の画面でログのフィルタリング操作と削除が行えます。

```
+-----+
|      Manage Blade Event Log Level      page_1_8_1      |
+-----+

(1) All Event
(2) Informational Event
(3) Minor Event
(4) Major Event
(5) Critical Event
(6) Clear All Entries
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. All Event

すべてのログを表示させます。

2. Information Event

インフォメーションのみを表示させます。

3. Minor Event

マイナーイベントのみを表示させます。

4. Major Event

メジャーイベントのみを表示させます。

5. Critical Event

クリティカルイベントのみを表示させます。

6. Clear All Entries

すべてのログを消去します。

以下のようなフォーマットでログが表示されます。[Enter] キーを押すことによって、すべてのログを確認することができます。イベントログのエントリはマネジメントブレードが最大 511 件、サーバブレードが最大 488 件まで保存できます。

画面上部にログの件数に関する情報が表示されます。

SEL entry number:XXX

システムイベントログ (SEL) に入っているログの数を表示します。

Free space of SEL entry:XXX

システムイベントログに入る残りのログ件数を表示します。

```
SEL entry number:XXX, Free space of SEL entry:XXX
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
XX/XX/XXXX HH:MM:SS Info      00062 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX.
----- XXX entries left, Press Enter (or type 0 to quit) -----
```



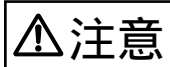
ポイント

イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に [Event Log] でログを確認し、必要に応じてログの保存 / 消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。

3. Server Blade Power On/Off Event Log Enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンについてのイベントログを記録するかどうか設定します。

- enable
サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録します。
- disable
サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録しません。



この設定を「enable」にすると、イベントログが記録される件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにしてください。

Set System Default

マネジメントブレードの設定をデフォルト設定に戻します。

```
+-----+
|               Set System Default               page_1_9               |
+-----+

(1) Set Config Default           : false
(2) Set Username/Password Default : false
(3) Set CMOS Backup Default      : false
(4) Set Deployment Default       : false
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Set Config Default

設定をデフォルトに戻します。ただし、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイはデフォルト設定に戻りません。また、Time Zone は (GMT+0) になります。

デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。

2. Set Username/Password Default

ユーザ名とパスワードをデフォルトに戻します。

デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。

3. Set CMOS Backup Default

CMOS Backup 設定をデフォルトに戻します。

デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。

4. Set Deployment Default

Deployment 設定をデフォルトに戻します。

デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。

Server CMOS Backup/Restore

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避 / 復元処理を行います。サーバブレードの電源を入れたあと POST が終了しなければ操作できません。操作可能なサーバブレードは [Ready] と表示されます。

各サーバブレードの BIOS 情報の退避状況を表示します。退避されたデータがある場合には [MAC アドレス , 日付 , BIOS 版数] が表示されます。

各サーバブレードを選択すると [Server CMOS Configure] ページが表示されます。

```
+-----+
| Server Blade [Status][CMOS Backup File] Table   page_1_10 |
+-----+
(1) Server Blade_1  : [Ready]    [XX:XX:XX:XX:XX:XX,MM/DD/YYYY HH:MM:SS,XXXXX]
(2) Server Blade_2  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(3) Server Blade_3  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(4) Server Blade_4  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(5) Server Blade_5  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(6) Server Blade_6  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(7) Server Blade_7  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(8) Server Blade_8  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(9) Server Blade_9  : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(10) Server Blade_10 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(11) Server Blade_11 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(12) Server Blade_12 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(13) Server Blade_13 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(14) Server Blade_14 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(15) Server Blade_15 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(16) Server Blade_16 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(17) Server Blade_17 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(18) Server Blade_18 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(19) Server Blade_19 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
(20) Server Blade_20 : [Not Ready] [No Backup COMS File]
Enter selection or type (0) to quit:
```

Server CMOS Configure

CMOS ファイルのバックアップ / リストアを行います。

```
+-----+
| Server CMOS Configure   page_1_10_1 |
+-----+
(1) CMOS Control
(2) CMOS Configure Restore Target : XX
(-) Server CMOS ID With BIOS Version : XXXX
(-) Server CMOS ID With Mac Address : XX:XX:XX:XX:XX:XX
(-) Backup Date Time : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
Enter selection or type (0) to quit:
```

CMOS Control

```
+-----+
|           Page_1_10_1_1           |
+-----+

CMOS Control : unknown
(1) backup
(2) smart-restore
(3) force-restore
(0) quit
Enter selection :
```

1. backup

選択したサーバブレードの BIOS 情報の退避を行います。

2. smart-restore

このスロットで退避したデータを、[CMOS Configure Restore Target] で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してスマートリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っている場合のみ BIOS 情報の復元を行います。

3. force-restore

このスロットで退避したデータを、[CMOS Configure Restore Target] で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してフォースリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っていない場合でも BIOS 情報の復元を強制的に行います。

CMOS Configure Restore Target

復元対象となるサーバブレードのスロット番号設定を入力します。

```
+-----+
|               Page 1_10_1_2               |
+-----+

CMOS Configure Restore Target : 1
Please Input New Value (Press enter to quit)
-->>
```

Server CMOS ID With BIOS Version

BIOS 情報を退避したサーバブレードの BIOS 版数を表示します。

Server CMOS ID With Mac Address

BIOS 情報を退避したサーバブレードの MAC アドレスを表示します。

Server CMOS Configure Data Time

サーバブレードから BIOS 情報を退避した日付を表示します。

⚠ 注意

- BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避 / 復元することができます。内蔵 RAID 装置の BIOS 情報については退避 / 復元できません
- 退避 / 復元の結果はマネジメントブレードのイベントログに記録されます。
- 退避したサーバブレードの BIOS 設定情報はマネジメントブレード上の ROM に保存されます。マネジメントブレードを交換するとその情報は失われます。ただし、マネジメントブレードが冗長構成の場合には ROM の情報はマスター - スレーブ間で同期されますので、片側のマネジメントブレードを交換しても退避した BIOS 情報は失われません。

Deployment Parameter

```
+-----+
|          Deployment Configuration          page_1_11          |
+-----+
(1) Server Blade_1
(2) Server Blade_2
(3) Server Blade_3
(4) Server Blade_4
(5) Server Blade_5
(6) Server Blade_6
(7) Server Blade_7
(8) Server Blade_8
(9) Server Blade_9
(10) Server Blade_10
(11) Server Blade_11
(12) Server Blade_12
(13) Server Blade_13
(14) Server Blade_14
(15) Server Blade_15
(16) Server Blade_16
(17) Server Blade_17
(18) Server Blade_18
(19) Server Blade_19
(20) Server Blade_20
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されている各ブレードに対して以下の Deployment 用パラメータが表示 / 設定できます。

```
+-----+
|          Deployment Configuration          page_1_11_1        |
+-----+
(-) Chassis ID           : XX
(-) Slot ID             : XX
(-) MAC Address_1       : XX:XX:XX:XX:XX:XX
(-) MAC Address_2       : XX:XX:XX:XX:XX:XX
(5) IP Address_1        : X.X.X.X
(6) IP Address_2        : X.X.X.X
(7) Subnet Mask_1       : X.X.X.X
(8) Subnet Mask_2       : X.X.X.X
(9) Default Gateway_1   : X.X.X.X
(10) Default Gateway_2  : X.X.X.X
(11) Hostname            : XX
(12) Master Image Reference : XX
(-) Status of Blade     : XX
(14) Automatic Recovery : XX
(15) States of Cloning  : XX
(16) LAN status of slot : XX
Enter selection or type (0) to quit:
```

Chassis ID

シャーシの ID を表示します。

Slot ID

サーバブレードが搭載されているスロットを表示します。

MAC Address_1

サーバブレードの LAN ポート 1 の MAC アドレスを表示します。

MAC Address_2

サーバブレードの LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。

5. IP Address 1

サーバブレードの LAN ポート 1 の IP アドレスを設定します。

6. IP Address 2

サーバブレードの LAN ポート 2 の IP アドレスを設定します。

7. Subnet Mask 1

サーバブレードの LAN ポート 1 のサブネットマスクを設定します。

8. Subnet Mask 2

サーバブレードの LAN ポート 2 のサブネットマスクを設定します。

9. Default Gateway 1

サーバブレードの LAN ポート 1 のデフォルトゲートウェイを設定します。

10. Default Gateway 2

サーバブレードの LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを設定します。

11. Hostname

ホストネームを設定します。

12. MasterImageReference

マスタイメージのディレクトリを設定します。

Status of Blade

サーバブレードの現在のステータスを表示します。

14. AutomaticRecovery

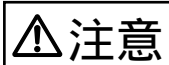
オートマティックリカバリ機能を有効にするかどうかを設定します。

15. Status of Cloning

クローニングのステータスを表示します。

16. LAN status of slot

LAN ステータスを設定します。



注意

IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Hostname、MasterImageReference 等は ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合を除いて変更しないでください。

5.4.3 Console Redirection

マネジメントブレードからサーバブレードとスイッチブレードのコンソールリダイレクションを行うことができます。サーバブレードは POST 画面の表示や BIOS セットアップユーティリティの操作などが行えます。スイッチブレードはコンソールメニューの表示や操作を行うことができます。



注意

コンソールリダイレクションは、搭載されている複数のサーバブレードおよびスイッチブレードに対してそれぞれ同時に 1 つしか使用することはできません。

```
+-----+
|           Console Redirection Table           page_3           |
+-----+

(1) Console Redirect Server Blade
(2) Console Redirect Switch Blade
(3) Set Return Hotkey , Ctrl+(a character) : Q
Enter selection or type (0) to quit:
```

1. Console Redirect Server Blade

サーバブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```
+-----+
|           Console Redirect Server Blade           page_3_1           |
+-----+

(1) Console Redirect Server Blade_1
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されているサーバブレードの一覧が表示されます。
 コンソールリダイレクションを行いたいサーバブレードを選択すると、コンソールリダイレクション画面が表示されます。
 コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すとメニュー画面に戻ることができます(リターンホットキーについては「Set Return Hotkey, Ctrl+(a character)」(105 ページ)を参照してください)。



ポイント

サーバブレードはコンソールリダイレクションをサポートしています。コンソールリダイレクションはテキスト画面に対してのみ行えます。グラフィックモードを使用した画面(日本語 DOS 環境を含む)は出力できません。
 コンソールリダイレクションはマネジメントブレードと接続されたサーバブレードのシリアルポート A によって行われます。
 コンソールリダイレクション機能によって BIOS の操作などの管理作業をマネジメントブレードの CLI から行うことができます。
 コンソールリダイレクションに使用するエミュレート端末は基本 ASCII 文字列のみに限られていて、矢印キーやファンクションキー、コントロールキーはありません。しかし BIOS 設定などでは通常のキー入力として必要になります。特殊なキー入力(エスケープシーケンス)を行うことによってこれらのキー入力が可能になります。

Key	エスケープシーケンス
F1	<ESC>1
F2	<ESC>2
F3	<ESC>3
F4	<ESC>4
F5	<ESC>5
F6	<ESC>6
F7	<ESC>7
F8	<ESC>8
F9	<ESC>9
F10	<ESC>0
F11	<ESC>!
F12	<ESC>@
Home	<ESC>h
End	<ESC>k
Ins	<ESC>+
Del	<ESC>-
Page Up	<ESC>?
Page Down	<ESC>/
Up Arrow	<ESC>[A
Down Arrow	<ESC>[B
Right Arrow	<ESC>[C
Left Arrow	<ESC>[D
Shift Tab	<ESC>[Z
Reset	<ESC> or <ESC><Ctrl+BackSpace>

2. Console Redirect Switch Blade

スイッチブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```
+-----+
|           Console Redirect Switch Blade           page_3_2           |
+-----+

(1) Console Redirect Switch Blade_1
Enter selection or type (0) to quit:
```

搭載されているスイッチブレードの一覧が表示されます。
コンソールリダイレクションを行いたいスイッチブレードを選択すると、コンソール画面が表示されます。
コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すとメニュー画面に戻ることができます(リターンホットキーについては「Set Return Hotkey , Ctrl+(a character)」(105 ページ) を参照してください)。



ポイント

スイッチブレードはコンソール管理インタフェースをサポートしています。このメニューからアクセス可能です。

Set Return Hotkey , Ctrl+(a character)

コンソールリダイレクション画面でリターンホットキー「Ctrl キー + (使用する文字キー)」を入力すると、CLI の画面に戻ることができます。
ここではリターンホットキーで使用する文字キーを設定します。初期値はQです。
変更する場合は、選択後にリターンホットキーとして使用する文字キーを入力します。

5.4.4 Logout

ログアウトしてログイン画面に戻ります。

5.4.5 Reboot

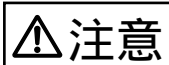
マネジメントブレードの再起動を行うことができます。

```
+-----+
| Reboot Selection: [1] Yes or [0] No      page_6 |
+-----+

(1) Yes,Reboot Now!
Enter selection or type (0) to quit:
```

(1) を選択すると以下の画面が表示され、マネジメントブレードが再起動します。

```
+-----+
| Management Blade Reboot Now!      page_6_1 |
+-----+
```



- マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続（Web UI、Telnet など）はいったん解除されます。操作を続ける場合はマネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。

A

Contents

A.1 仕様	110
A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項 ..	111
A.3 コンフィグレーションシート	112

A

A.1 仕様

本製品の仕様は以下のとおりです。

品名	マネジメントブレード
型名	PG-MB101
外部インターフェース	LAN (10Base-T : 全 2 重固定) × 1、 シリアル × 1
外形寸法 (長さ × 幅 × 高さ)	275 × 75 × 26 mm
質量	約 0.4kg
使用環境条件	シャーシ本体の使用環境条件と同様

A.2 リモート電源切断、ACPI シャットダウン機能に関する留意事項

A.2.1 リモート電源切断について

マネジメントブレードにはシャーシやサーバブレードの電源を Web UI や CLI からリモートで切る機能があります。

この機能を使用する場合は以下の事項について注意してください。

- シャーシのメイン電源をリモートで切る場合は、シャーシに搭載されているサーバブレードの電源がすべて切れていることを確認してから行ってください。サーバブレードが動作していると動作中のシステムを破壊してしまう可能性があります。
- サーバブレードの電源切断を指示するときは、サーバブレード上で OS を終了させてから行ってください。

A.2.2 ACPI シャットダウン機能について

ACPI 機能を使用してサーバブレードをシャットダウンする場合には以下の事項について注意してください。

- サーバブレード上で動作している Windows 2000 Server を ACPI 機能を使用してシャットダウン する場合は通常のシャットダウン操作とは異なります。そのため、イベントログに「以前のシステムシャットダウンは予期されていませんでした」とログが記録されます。また、シャットダウン時に動作しているアプリケーションのデータは保護されません。
- ACPI 機能に対応していない OS (Linux など) が動作するサーバブレードに対して ACPI シャットダウンを指示しないでください。強制的に電源を落とすことになり、システムを破壊してしまう可能性があります。

A.3 コンフィグレーションシート

本マネジメントブレードにおける各種設定値を記録しておきます。

選択設定箇所については マークのチェックボックスを用意しておりますので、設定したチェックボックスを塗りつぶすか、またレ印を付けておきます。

LAN Interface

設定項目	設定値	
Internet Protocol		
Use DHCP	disable enable	-
IP Address		-
Subnet Mask		-
Gateway		-
Domain Name Server		
DNS Server 1		-
DNS Server 2		-
HTTP		
HTTP Enable	disable enable	C
Port	()	-
Telnet		
Telnet Enable	disable enable	C
Port	()	-
DropTime	()	W
IP Filter		-

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

SNMP Interface

設定項目	設定値		
SNMP			
SNMP Enable	disable	enable	C
SNMP Security Enable	disable	enable	C
Community String			-
SNMP Trap Destination Destination (Community String)			-

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

Alarm Handler(SMTP)

設定項目	設定値			
Mail Settings				
SMTP ENABLE	disable	enable		C
To				-
From				-
Host				-
Subject	PRIMMAIL			
Administrator Name				W
Phone Number				W
Error Forwarding Level	Informational Critical	Minor	Major	W
Server Blade Power On/Off Event Log Enable	disable	enable		-

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

A

Management Agent

設定項目	設定値	
Time Zone		-
Timeout(Sec)	()	C
System Name		C
Location		C
System Contact		C
Return Hotkey	()	C

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

Chassis

設定項目	設定値		
Temperature Critical Reaction			
Sensor:1	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:2	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:3	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:4	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:5	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:6	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:7	continue	shutdown-and-poweroff	-
Sensor:8	continue	shutdown-and-poweroff	-

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

Fans

設定項目	設定値		
Fan Fail Reaction			
fan 1	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 2	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 3	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 4	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 5	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 6	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 7	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 8	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 9	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 10	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 11	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 12	continue	shutdown-and-poweroff	-
fan 13	continue	shutdown-and-poweroff	-
Fans Test			
Daily test time	disable	()	-
Fan test at every start-up	Yes		-

- : Web UI、CLI で設定可能です。

C : CLI で設定可能です。

W : Web UI で設定可能です。

A

索引

あ

アラームハンドラ 20, 23

い

イベントログ 20, 23, 94

え

遠隔操作 14

か

管理ソフト 8
管理端末 6, 8
管理ユーザの設定 10

け

ゲートウェイの設定 54, 102, 31

こ

コンソールメニュー 51
コンソールリダイレクション 103

さ

サーバブレード 2, 39, 103
サブネットマスク 9
サブネットマスクの設定 102, 31

し

システムファンユニット 2, 21, 64
シャーシ 6, 21, 27
シャーシ接続用コネクタ 3
ジャンパピン 3
状態監視 14
初期設定 8
シリアルインタフェース 48
シリアルインタフェースの設定 9
シリアルポートインタフェース 2
シリアルポートコネクタ 3

す

スイッチブレード 2, 37, 90, 105

て

デフォルト値 9, 31, 97
電源ユニット 2, 21, 26, 64

は

パスワード 8, 34, 97
パスワードの設定 92
パスワードの変更 22

ふ

ファン	29
フロントファンユニット	27

ま

マネジメントブレード	2, 38
マネジメントブレード異常ランプ	3
マネジメントブレードマスタ表示ランプ	3

ゆ

ユーザの追加	22, 92
ユーザ名	8, 34, 97

り

リアファンユニット	27
リターンホットキー	105
リチウム電池	3

ろ

ログアウト	106
ログイン	18, 50

B

BIOS 版数	100
---------------	-----

C

CLI	8
CLI からのパスワードの変更	10
CLI の使用方法	48

D

DHCP	31
------------	----

H

HTTP	21, 32, 55
------------	------------

I

Internet Explorer	18
IP アドレス	9, 18
IP アドレスの設定	21, 31, 53, 102
IP アドレスの表示	86

L

LAN アクティブランプ	3
LAN インタフェース	2, 49
LAN インタフェースの設定	8
LAN リンクランプ	3

M

MAC アドレスの表示	63, 87, 100, 101
-------------------	------------------

N

Netscape	18
----------------	----

P

PXE (Preboot eXecution Environment)	15, 44, 77
---	------------

R

RemotecontrolService	14, 48
----------------------------	--------

S

ServerView	14
SNMP	2, 22, 33, 56
SNMP コミュニティ名	22, 57
SNMP トラップ	22, 57

SystemcastWizard Professional	14
-------------------------------------	----

T

Telnet	48
Telnet の設定	21, 32, 58

W

Web UI	8, 18
Web UI からのパスワードの変更	10

その他

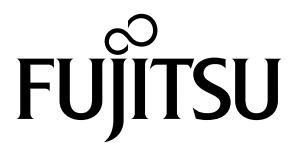
10BASE-T コネクタ	3
---------------------	---

PRIMERGY マネジメントブレード 取扱説明書

B7FH-0501-01-00

発行日 2002 年 9 月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利
の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



T4988618882170